〔論文〕

〔資料と解説〕

第二七期生による「東蒙古都邑調査報告」

愛知大学東亜同文書院大学記念センター長　藤田佳久

一、はじめに――「熱河コース」

書院生は「大旅行歌」にも唱われたように砂漠地帯の調査旅行にも憧れていた。それを満たすのは内蒙古や陝西、綏遠、甘粛、寧夏などへのコースの設定である。東亜同文書院大調査旅行記録シリーズの第二巻『中国を歩く』（大明堂）の中にはそのようなコースの一部も収録した。しかし、西方へは青海省までが限界で、新疆までコースを設定することは日数的にも無理であった。二期卒業生五人がかつて西域調査へ出かけた時、往復に二年間を要し、三、四カ月の旅行日誌では届かない世界であったからである。

一行七人（橋本義雄、今泉正民、加藤隆徳、田添正嗣、根岸孝彦、古薮盛三、江下清一）は一九三〇年、上海から船で青島から天津へ向かい、北京もしっかり見学したあと、唐山の町から早朝に馬車一台を雇って出発している。町には戒厳令が出ていたことからすると、この時期、この河北省北部はすでに軍事的に緊張状態に入っていたことがうかがわれる。そのコース日誌を追うと次のようである。

町を一歩出ると麦と玉蜀黍でおおわれた平野が続き、小島状に次々とあらわれる村落の単純な景観にうんざりした様子がうかがわれる。早くも最初の陸行で班員の一人が病気になり、他のメンバーもかなり疲労を感じ、最初から急ぐな、と言う先輩達の言葉を想起したりしている。そのため、このあと万里の長城を越え、熱河省に入ったところにあるコース上の町平泉までバスがあることを知り、バスに乗っている。しかし道が悪く、揺れは大きくパンクしたりしている。河川の河原がバスの道になっており、道が独立的に整備されているわけではない。それにもかかわらず、このコースにもバスが導入されていたことを考えると、バス交通がいかに当時の中国で期待されていたかがわかる。

万里の長城を抜けると山道になり、さらに道は険悪となるが、ケシの花がいっぱい咲いていることも記録されている。ここを通過するといよいよ高原地帯に入り、樹木も渓谷の堆積地の部分に限られ、放牧が目立つようになる。

こうして平泉へ。すぐ西方に清朝の夏の政府が置かれた承徳があるが、この一行は承徳には寄っていない。

平泉の町には張作霖の軍隊があふれ、翌年勃発する満州事変の前の様子がうかがわれる。

平泉からはいよいよ徒歩による陸行が始まる。熱河の草原と砂漠の旅が始ったわけである。人家もどんどん少なくなる中を、季節柄の雨にも降られながら、小さな馬宿のある村をつないでいく。このような乾燥地帯においても一定の間隔で集落が配置され、旅人用のネットワークが組まれていることは、所収の黄河流域の砂漠地帯においても

みられた点である。

北上するにつれ砂丘や砂山、そして峡谷と、変化に富む中をすすむにつれ乾燥地帯の特徴が強まり、牛馬の放牧も目立つようになる。そんな中を馬車を駆って砂山をいくつも越え、道なき道ゆえ、馬店にうまくたどりつけなかったりしており、馬夫といえども、ルートを確保していくことはかなりむずかしいことがうかがわれる。馬も倒れて動かなくなったあと、ようやく砂漠地帯への最前線に出来た町、赤峰に到着している。ここには先輩もいてようやく落ちつけたが、早くも馬車代で旅費が赤字になり、借金をして補充している。

赤峰からは三頭立の馬車で河沿いにすすむが、谷は河川の水で緑や湿地がみられ、そのすぐ外側まで砂漠になっていることがわかる。砂漠も水さえあれば緑地になるが、耕地は少い。その外側には甘草が広がり、満州公司がこの甘草の精製をする企業であることもわかる。

雨が降れば湿地は広がり、止めば乾燥する土地条件も描かれている。対馬賊、対土匪用に護兵が二名付けられ、轍の跡を追うが、降雨があるとそれが消えてしまい、なかなか進行方向の定まらない様子もわかる。途中、三家子にたどりつけないで迷ったことも記されている。砂漠や草原、沼地、河床、砂丘の中を存分に歩き回ったことが記録から読みとれる。道を求めるのが砂漠ではかなりむつかしそうである。草原も背高の高い草原で迷ったことから、草原のイメージも単純ではなさそうである。

こうして砂漠中を流れる老哈河沿いに下ると、やがて耕地が広がるようになり、そこではケシと高粱が目立ち、さらにそれに麦も加わるようになる。こうして開魯の町へようやくたどりつく。

平泉からこの開魯までのコースは、まさに砂漠と草原の中を、行き先を求めてさまよったことがわかる。この一帯の詳細な土地利用や状況が克明に描かれており、乾燥地帯の特性が十分にわかる記述になっている。砂漠と草地の織りなす単純でない世界への理解がこれによってすすむことが可能であるように思われる。そこにこの記録の貴重な価値が存在するといってよい。

二、「東蒙古都邑調査」

ここで以下に取り上げる二七期生の東蒙古経済調査班による「東蒙古都邑調査」（一九三〇年）は、前述の熱河コースの日誌を記した班のうちの一人の調査報告書で卒論にもなった。この熱河地方の旅は、日誌でみれば雲南からビルマの山間コースと異なり、平坦地の砂漠と草原の調査旅行ではあったが、ルートがなかなか確認出来ないなど大変なコースではあった。

そのような中で、これも特定地域を集中的に調査したのではなく、コースに沿いながら順次調査を行なった作品である。唐山、遵化、寛城、平泉、黄土梁子、五十家子、赤峰、赤峰と開魯間の二二の鎮店、開魯、通遼（白音太拉）、遼源、鄭家屯などの各都市について、地誌的に記録され、あまり知られていない当時の熱河省を中心とした諸都市の様子が描かれている。もちろん都市により調査内容に濃淡の差はあり、また都市間のネットワークにまでは言及されていない。しかし、主な地方の中心都市については、かなり重点的に調査が行なわれており、人口の疎な地域におけるそれぞれの都市の中心性のレベルと、その配置の特性が推定できる内容である。今日のこの地域の情報が得られるならば、十分にそれらの比較研究が可能になり、それらの都市の中心性と都市システムの継承か再編かが明らかになることであろう。

コースの日誌とは異なり、この「東蒙古都邑調査」は対象地域の中から選んだこのテーマによる卒業論文にもなった作品である。以下、それを掲げる。なお、原文は手書きのカタカナと旧字体で読みにくい箇所もあるが、ここでは旧字体を当用漢字に変更するなど工夫した。

三、東蒙古都邑調査報告（一九三〇年）

（原文はタテ書き）

第一章　唐山

第一節　位置及沿革

唐山ハ京奉鉄道ノ一駅ニシテ、豊潤県ト灤県トノ間ニ位シ、天津ヲ距ル東方約八十哩ノ地点ニアリ。北方豊潤県城ニ到ル五十支里、東灤県ニ到ル百十支里トス。土地ハ直隷平野ノ割スル処、唐山諸山ノ起伏セル間ニアリテ、市街ハ唐山ヲ後ニ控ヘ台地ノ上ニ位シ、丘ノ東斜面ニ沿フテ発達シ、而シテ北塘河ノ一支流槐牛河ハ市ノ北方ヲ流ル。

左ニ唐山炭坑及市街ノ概図ヲ挿入ス〈第２図〉。

此地ハ開平ト共ニ古ヘヨリ石炭ノ産出ヲ以テ名アリ。竣坑ハ其初メ地方住民ガ手掘リニテ採掘シ、自家用ニ供シタルモノニ過ギザリシガ、確実ナル記録ニ依ルニ、明朝時代或ハ三百年以前ニハ手掘リニテ採取セラレシト謂ハル。而シテ歴史ニヨルニ、開灤諸炭中ニテ最モ早ク採掘ガ始メラレ、其外国人ノ手ヲ染メシモ該坑ヲ以テ嚆矢トセリ。白耳義人ノ最初ニ之ニ着目シ開採セシハ、西暦一八七九年ナリトス。降ッテ光緒二十四年ニ至リ、山津、山海関ノ鉄道ノ完成ヲ告グルニ及ビ、停車場ヲ唐山ト開平ノ両処ニ置キテ、斯クテ開平トハ全然ニ分離スルニ至レリ。

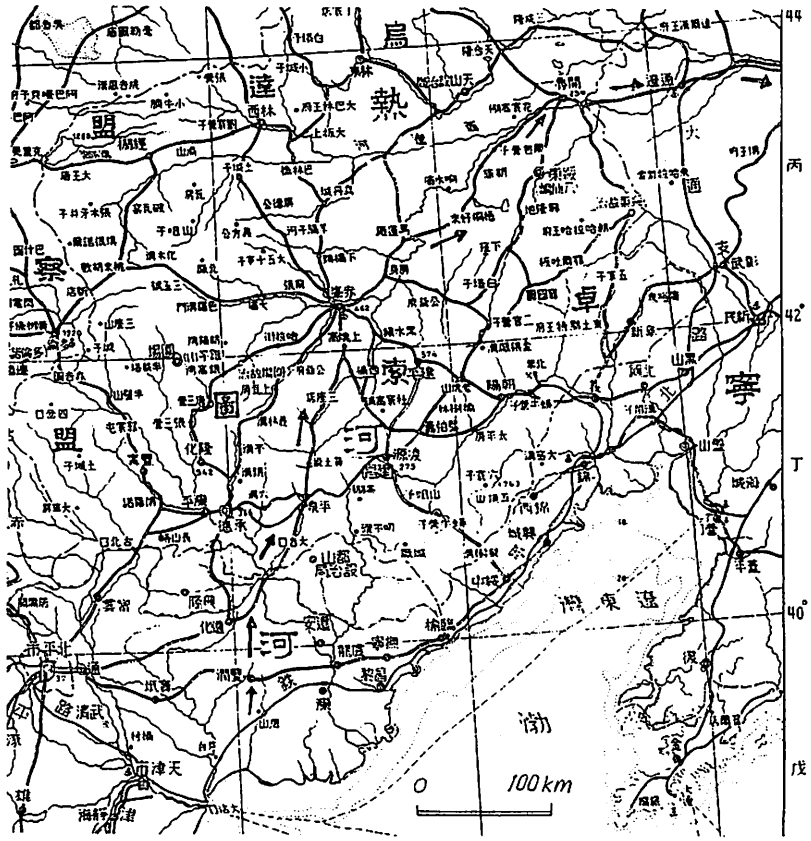
如此開平鎮ニ属スル一部落ニ過ギズシテ、其採掘ノ方法モ亦土法ニヨリテ為サレ、小規模ノモノニ過ギザリシモ、光緒三年ニ李鴻章ガ初メテ英人ヲ招聘シテ新式ノ採掘ヲ従事セシヨリ、漸次ニ発達ノ域ニ向ヒテ、光緒二十四年ノ鉄道ノ敷設ト共ニ、其豊富ナル石炭ノ産出ハ此地ヲシテ急激ナル進展ヲナサシメ、遂ニ今日ノ如キ都市ヲ形成スルニ至レリ。又一方ニ胥口荘マデ運河ヲ造リ、海運ニテ送付ヲナセリ。

セメント会社ハモト独逸ト合併ナリシモ、欧州戦後独乙兵ノ撤兵ト共ニ支那人ノ経営スル所トナレリ。且ツ京奉鉄道ノ製作所ガ設立セラレ、職工三十ヲ有シテ列車及ビ貨車ヲ作リ、外人ノ監督ヲ置ケリ。

第二節　人口及戸数

唐山ノ人口及戸数モ次第ニ増加ノ傾向ニアリテ、即チ之ヲ表示スレバ次ノ如シ。

国別	戸数	男子	女子	合計
中国人	10,684	35,852	17,069	52,894
英国人	23	35	30	65
美国人	1	82	ナシ	82 (現ナシ)
比国人	9	16	11	27
丹国人	1	2	1	3
法国人	2	1	4	5
俄国人	4	17	6	23
日本人	4	9	8	17



第１図　熱河地方の調査コースと主な都邑

第三節　諸機関及公署

官衙ノ部　　公安局、分局（第四迄アリ）、兵営、商会、官塩局等。

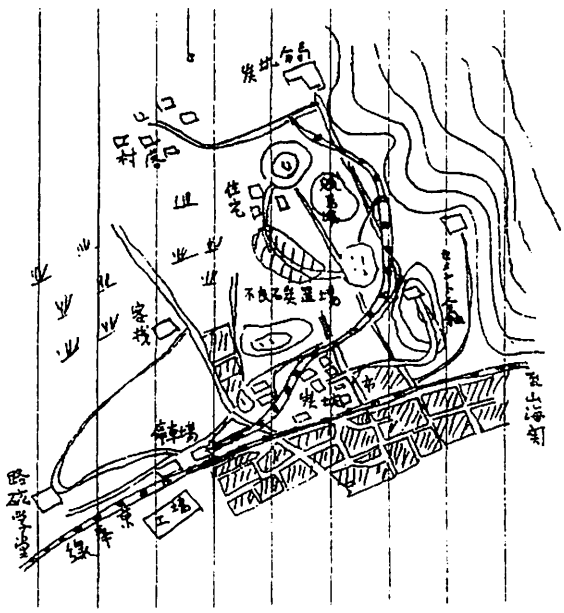
学校ノ部　　唐山交通大学（生徒四百名）、国立専門学校アリ。河北第四中学校、同培女学校、小学校（五校）、貧民救養院、フランス系天宗教学校。

銀行　　交通銀行支店、中国銀行支店、銭荘——四十五軒。流通紙幣ハ中国、交通、辺業、山西、中南ノ諸銀行及ビ、横浜正金銀行、花旗銀行、墾業銀行ノ紙幣モ幾分流通セリ。兌換ハ大洋勘定ニテ、一元ハ銅片四百五十六文トス。

第四節　貿易（輸移出人品）

輸出品　　落花生、綿、石炭（秦皇島ヨリ移出ス）、鶏卵（莫大ノ額ニ上リ、天津鶏卵ノ過半数ハ唐山ヨリ出ヅルモノトス。一日二十万個ニ上ルト云フ）

輸入品　　綿糸、綿布、雑穀、メリケン粉等ノモノトス。



第２図　唐山の炭坑と市街図

第五節　工業

㈠　唐山炭坑

各坑井ノ状況　　唐山坑内ハ高サ一間半ノ塀ヲ以テ囲マレ、墻外ハ殆ンドアカシヤニテ包囲サル。坑井 shaft ハ第一、第二、第三ノ三坑ニ分レ、相続イテ南北ニ直線上ニ並ブ。而シテ第一坑井ハ目下ハ盛ンニ出炭シツヽアリト雖モ、ソノ出炭量ハ第三坑ノ三分ノ二ニ過ギズトス。

坑口ノ直径ハ一丈四尺、円形ノ竪坑ニシテ深サ約九〇〇尺。ゲージ（Gage）ハ三分ノ一屯入リノ炭車四箱ヲ二段トナシテ、二個ノゲージハ交互ニ入リ、交互ニ坑外ニ旦ルノ装置トナレリ。第二坑井ハ第一坑井ニ隣接シ、三坑中ニテ最少ノモノニシテ、以前ハ採掘ニ従事セシモ目下ハ停止中ナリ。坑口ハ円形ニシテ直径僅カニ四尺ニ過ギズ、長サ三尺、幅一尺二寸ノ石炭車ヲ交互ニ上下セシム。此引揚機械ヲ運転スルホイールノ直径五尺ニシテ、運転スル汽筒ノ長サハ二尺三寸、幅一尺ナリ。

坑井ノ深サハ六百尺ニシテ、石炭車ゲーヂ 1/3 屯入リトス。此坑井ハ三坑ノ中ニテ最モ出炭高少シ。第三坑井ハ坑井ニテ最モ大ナルモノニシテ、従ッテ出炭量ハ極メテ多シ。坑ノ深サハ千五百尺ニシテ、坑口ノ直径一丈六尺ニ達シ、直径三尺ノ石炭車三個宛二段ニ収メタル六函入リノゲーヂガ左右ニ交互ニ上下セリ。之ヲ運転スル捲上機ボイルノ直径ガ二丈三尺ニシテ、出炭動力タル汽筒ノ長サ七尺六寸、幅四尺トス。

発電所　　唐山坑ノ発電所ハ北西坑ニモ電波ヲ通ズルモノニシテ、三個ノ交流ダイナモヲ備ヘ、各個八千二百キロワットヽス。而シテダイナモノ直径ハ一丈九尺ニシテ、之ヲ回転セシムル機関 Cylinda ハ長サ一丈五尺ニシテ、幅五尺トシ各個同一トス。

採炭ノ状況及ビ採炭設備　　主要ナル坑道ハ坑底マデモ複線ヲ通ジテ採掘セラレ、跡ニハ坑木ヲ以テ煉瓦ノ代用トナセル処アリ。

坑夫ノ数約二千名。一週間ノ採炭量七万屯乃至十万屯トス。坑内ニハ馬匹ヲ用ヰテ複線ノ道ヲ馬ニ曳カシム。通風装置トシテハ、キンバル式煽風器ヲ用フ。而シテ坑内ハ瓦斯極メテ少量ナルガ故

ニ、坑夫ハカンテラヲ用ヰテ差支ヘナク安全灯ヲ用フルモノ少数ナレドモ、坑内監督ノ役員ハ多クハアセチレン瓦斯ランプ及安全灯ヲ用フ。排水設備ハ喞筒ヲ用ヒ、一分間ニ排渫スル水ノ分量ハ三百立方呎六七電力ヲ応用シテ、喞筒ノ動力トナセリ。セントリフューガルポンプ（Centrifeigal pump）大小五台アリ。

選炭設備　選炭ノ設備ハ第一坑、第三坑ノミニシテ、選炭篩ノ設備アリ。第一坑ハ長サ一丈五呎、幅六尺、出口三尺ノ選炭篩一個ヲ有シ、電力ヲ用ヰテ自然的ニ動揺シテ粉炭ヲ篩ヒ落シ、塊炭ノミガ通過シテ選炭ヲナス。第三坑ハ第一坑井ノソレト殆ンド同一大ノ篩二個ヲ備ヘ選炭ヲ行ヒ、直チニ石炭車ニ積込マル。

(1)唐山坑附属工場　採炭用鉄具類ノ製造ト同修繕ヲナス所ニシテ、製造機ハ凡ベテ電力ヲ原動力トナシ、ソノ規模ハ極メテ大ナリ。目下ハ更ニ之ヲ拡張シテ、炭坑内ニ使用スル汽関セントフューガルポンプ其他ノ通風機及ビ石炭車諸機械ノ製造ヲナスノ計画ナリ。

(2)木工場　鉄工場ニ続キテ木工場アリ。コレ又電力ニヨリ巨大ナル鋸ヲ働カシテ鉄板ヲナシツヽアリ。

(3)煉瓦工場　開渫炭坑ノ坑道ハ、木材価ノ高キテ関係上、日本内地ノ炭坑ノ多木材ヲ用ヰズシテ全部煉瓦ヲ使用ス。故ニ各坑ニ重要セラル、煉瓦ノ数量ハ極メテ多ク、而カモ該地ノ粘土ハ煉瓦ノ製造ニ適スルヲ以テ、此ニ同公司ハ之ガ製造ヲ始メタリ。而シテソノ製造ハ一ケ年ニ四万屯乃至五万屯製出シ、必要ニ応ジテハ十万屯ヲ製出スルノ能力アリト云フ。コハ啻ニ坑内ノ需要ヲ充タスノミナラズ、尚市場ニ向フテ之ヲ販売シツヽアリ。此ニシテ坑内ハ煉瓦ヲ以テ坑道ヲ築クト雖モ、尚大阪、神戸ノ地方ヨリ秦皇島ヲ経テ輸入セラレ、該諸炭坑ニ使用セラル、坑木モ少カラズ。而シテ該煉瓦ヲ市場ニ出ストキハ、煉瓦ノ側面ニK、M、A及ビC、E、C、Iナル商標ヲ附シテ三種ニ之ヲ分ツ。一等品ハ英国標準型ニヨリテ製セラレシモノニシテ、長サ九吋、幅四吋五分、厚サ二吋五分アリ。而シテ高熱ニ耐ユルノ性質ナルガ故ニ、熔鉱炉ソノ他ノ竈ヲ築造スルニ用ヰラル。ソノ熱ニ対坑スルノ程度ハ一、七〇〇度（摂氏）以内トス。二等品ハ大キサ一等品ト同型ナルモ耐火性弱ク、一般ノ建築用ニ採用セラル。市場出炭ノ九割ハ河北、山東、山西及ビ満州方面ニ搬出セラル。三等品モ亦同型ニシテ、色ハ灰褐色ヲ呈シ。主トシテ坑外築造用ニ供セラル。ソノ耐火性ハ比較的ニ弱キガ故ニ、熱度ノ高カラザル竈ニ用ヰラル。ソノ耐熱温度ハ一、〇四〇度ナリ。

(4)瓦工場　唐山ノ粘土ハ耐火粘土ナルヲ以テ、之ヲ利用シテ瓦ノ製造ヲナシ、支那市場ニ供給ス。

(5)土管製造　該地ノ粘土ノ良性ナルヲ利用シテ、土管ヲ造ル。ソノ種類ハ直径十二吋、六吋、四吋、三吋等ノモノトス。

(6)コークス、竈　開渫炭ハコークス製造ニ適スルヲ以テ、唐山坑ニモコークス竈ヲ有シ、コークスノ製造ヲナス。竈ノ数約三十余ヲ有シ、日本旧式ノ木炭燃ノ如キ式ナリ。

(二) セメント工業

此セメント製造ハ啓新洋灰公司ニシテ、本社ヲ天津仏租界ノ大道ニ沿ッテ資本金五、八〇〇、〇〇〇元（一株五〇元）ヲ有スル株式会社ニシテ、此他以外ニ附属工廠トシテ塘沽ニ華記洋灰公司ヲ置ク。

(1)沿革　本公司ハソノ設立古ク、一八九〇年（明治二十三年）唐山ニ本工業ヲ開始セリ。コレ支那ニ於ケルセメント工場ノ嚆矢ナリトス。ソノ当初ノ英支合同事業タル開灤鉱務局ノ経営ニ係リシガ、十数年前之ヲ支ニ売渡シ、官商合弁ニテ支那人ノ所有ニ移シタリ。而シテ漸次事業ノ発展ト共ニ増資ノ必要ヲ感ジ来リ、一九一三年ソノ資本金ヲ五百八十五万元トナセリ。

(2)セメント工廠　唐山ニ於ケルセメント工廠ハ、ソノ前経営者タル開灤鉱務局トノ関係上、京奉鉄道ヲ最モ有利ニ使用シウルノ特典アリ。唐山駅ヨリノ支線ハ、工廠内並ビニ原料採掘処ノ山麓

ニマデ延ビ、賃ハ亦低廉ニシテ、天津、北京ヘノ運送上甚ダ有利ニシテ、且ツソノ燃料ナル石炭ハ、啻ニ生産地ニ接近セルノミナラズ、鉱務局トノ間ニ頗ル低廉ナル供給契約ヲ協定シツヽアルモノナリ。

(3)外国干係　先キニ株主タリシ独乙人ハ悉クソノ株券ヲ支那人ニ売渡シ、唐山工廠ニ従来使用シ来リシ独乙人ノ技師五名モ亦独支国交ノ断絶ノ後尽ク解傭セラレタリ。

(4)工廠　此工廠ノ位置ハ唐山駅ノ北西約三支里ニ一個所、他ニ同所ノ西方ニ分工廠アリ。ソノ設備ハ独乙機械ヲ用ヒ、動力ハ火力ニヨル所ノ発電機ニシテ一、五〇〇馬力ヲ有セリ。分工廠ニ使用スル機械ハ英国製ニシテ、ソノ据附ケノ当時ヨリ成績不良ノタメ一時休止、最近ニ於テ再ビ之ヲ開始セリ。

工廠内ノ地ハ約二千五百坪ニシテ、左ノ個所ニ区分セリ。(イ)原料堆積所、(ロ)砕石場、(ハ)混合場、(ニ)小鋳場、(ホ)乾燥場、(ヘ)回転窯、(ト)分篩場、(チ)計量場、(リ)格規場、(ヌ)包装場、(ル)積出場、(オ)木工場、(ワ)鉄工場、(カ)機械室、(ミ)発電所、以上。

(5)製造法　石炭ヲ砕キ粘土ヲ混ジテ多量ノ水ヲ加ヘテ攪拌シ、更ニ別器ニ之ヲ移シテ上水ヲ流出セシメ、沈殿物ヲ乾燥シ、然ル後回転窯ニ送リ回転シツヽ燃焼セシメ、之ヲ更ニ粉砕シテ篩分ク。ソノ方法ハ四米突ニ付九百孔ヲ有スル篩ニテ、二〇〇分ノ一〇以下ノ粗石ヲ止ムルモノヲ以テ定規トナシ、コレ以上ハ凡ベテ機械力ニヨル。

(6)使用人員　現在ハ約一、〇〇〇人位ナリ。

(三)　土器製造業

当地ニ於ケル土器製造場ハ之ヲ缸窯ト称シ、凡ベテ六四軒アリテ、各製造場ニハ焼窯ヲ一個又ハ二個ヲ設備シ、一窯ハ概ネ缸四、五十個及ビ鉢五十套（一套ハ四個一組）ヲ焼クベク、各製造場ニハ鉢若クハ甕類製造ノ際ニ使用スル木輪（直径三尺）ヲ設備ス。原料ハ唐山ヲ距ル事二、三支里ノ北口ヨリ採取ス。

(四)　製鉄所

此ニハ約三千ノ職工ヲ有セリ。

(五)　紡績工場

コハ支那人ノ経営ニシテ、此ニハ約八百名ヲ有セリ。

第六節　市街概観及名勝

鉄道ノ幹線ヲ挟ミテ商売ハ軒ヲ並ベ、東西ニ長ク約十町余ニ連ル。鉄道以北ノ市街ヲ以テ最モ繁盛ノ地トシ、雑貨商、飲食店、布局、鉄舗、酒房、油房等ノ大ナルモノ櫛比セリ。我邦人ノ薬種商モ亦数店アリ。新開ノ市街ナルヲ以テ建築物ハ多ク良好ナル煉瓦ヲ以テ畳ミ、ソノ壮麗到底内地県城ノ比ニ非ズ。尚本市ニハ競馬場モ設ケラレ居レリ。

名勝　駅北ノ四支里ニアル唐山ハ一名鳳凰山トモ称シ、山上ニ廟宇アリ。内ニ鉄菩薩一尊安置サル。高サ丈余、庙ノ傍ラニ弥勒ノ仏庙アリ。庙内一洞穴アリテ深サ三十支里、直チニ車軸山ニ通ズト云フ。山上ニ又一石城アリテ、高サ六、七尺相伝ヘテ唐山ノ大宗東征ノ時ニ築ク所ナリト云ハル。ソノ他唐山ニハ三太爺庙アリ。緑松翠相欝然トシテ幽邃ニ門外ニ石亭アリテ、中外ノ紳官ノ清遊スルモノ多シ。

市況　唐山ノ今日アル所以ノモノハ、一ハ其石炭ノ産出アルタメニシテ、年々ノ産額ハ実ニ巨額ニ上リ、遠ク他省ニ移出サル。其他セメント会社、京奉鉄道ノ作業局等ノ大工場多ク、北支ノ一流ノ工場地ナリ。サレバ其商取引モ従ッテ活発ヲ呈シ、石炭、セメント、煉瓦ノ取引ハ最モ盛ニシテ、尚当地ノ物産トシテハ高粱、麦等ノ雑穀ヲ初メ、柿、栗、林檎、葡萄等ノ果実モアリ。

第七節　交通

古ヘヨリ関ノ内外出入ノ要路ニ当リシガ、鉄道ノ開通以来貨物ノ運送、旅客ノ往来ハ主トシテ鉄道ニヨル。市街ノ交通機関トシテハ、大車、轎車、馬、長途汽車等ノ他小数ノ人力車アルモ、道路ノ不良ナルガタメ其利用シ得ベキ範囲ハ極メテ狭シ。玉田迄長途汽車ヲ通ゼリ。

第二章　遵化

第一節　位置及地勢

遵化県ハ北平ノ東北凡ソ三百支里、西南薊県城ニ到ル百二十支里、北西六十支里ニシテ、馬蘭峪、羅文関等ノ堅メアリ。南ニ龍山、筆架山ヲ望ミ、沙河ハ城南及ビ城西ヲ洗ヒ、地勢南西ニ向ッテ開ケタリ。

第二節　戸口及人口

戸数ハ一千六百余、城外ハ一千ニシテ、人口ハ合計シテ一万三千内外ナリトス。

第三節　市街概況

市街ハ城内及ビ城外ヨリ成リ、城外ハ東関、西関、南関ノ三所ヨリ成レリ。城壁ハ周囲六支里、高サ三丈、四方ニ各一門ヲ開キ、城外ニハ更ニ深サ一丈、幅三丈余ノ濠ヲ繞ラス。唐代ノ築城ニ係リ、ソノ後修理ヲ行フ事数度、十年以前ニ大修理ヲ加ヘタレバ今尚壮麗ナリ。

城内ハ十字街ヲナシ東西ニ通ズルヲ最盛ノ地トナシ、南門内モ亦繁華ナリ。商況ハ盛ニシテ大賈軒ヲ並べ、雑貨店、布店、糧食店、銭舗、石炭商等ノ大ナルモノ少カラズ。此他ニ官衙トシテハ県署、警察署アリ。又兵営ヲ置ケリ。街路ノ幅ハ概シテ二間乃至三間石ヲ敷クヲ以テ、降雨ノ際モ歩行容易ナリ。

市ノ北西七十支里、端山ニ東陵アリ。易県ノ西陵ト共ニ清朝一代ノ墓陵ニシテ、西太后、徳崇皇帝等ノ霊位ハ皆此地アリ。

第四節　市況

此地ハ喜峰系、馬蘭峪等ノ諸口ヲ通ジテ直隷、蒙古トノ通商行ハレ、国外ヨリハ毛布、粟、胡椒等ヲ移入シ、雑貨、綿布等ヲ移入ス。従ッテ本市ト天津地方トノ交易ハ盛ニシテ、一ケ年ニ二、三十万枚ノ毛皮ヲ取扱フ毛皮店少カラズ。綿布ニハ洋布、土布相半バシ、又日本産ノモノモアリ。市内ニハ諸処ニ市場アリ、日ヲ定メテ取引ヲナシ居レリ。ソノ主ナルモノハ石炭市場（西門内）、馬市場（同上）、野菜市場（数ケ所）等ニシテ、其他日用品及荒物ヲ販売スルモノアリ。然レドモ工業ト称スベキモノ殆ンドナク、市内ニ四家ノ錫器商アリ、香炉、燭台等ヲ作レリ。何レモ微々トシテ振ハズ。附近ノ一帯ニハ農産物多ク、粟、麦、豆、高粱等ヲ産セリ。

第五節　交通

南方豊潤及ビ玉田ニ、西南薊県ニ、東南薊安ニ陸路ヲ通ジ、且ツ北方ハ長城ヲ越ヘテ承徳、平泉等ノ直隷、蒙古ニ通ズルノ要路ニ当ル。故ニ交通ハ頻繁ニシテ、古ヘヨリ対国外蒙古枢要ノ地タリ。交通機関トシテハ轎車、大車アレドモ、多クハ馬、騾、驢等ノ牲口ヲ用ヰテ、稀ニハ牛ヲモ使用セリ。

近代ニハ玉田、平泉、長途汽車ノ寄リ路ニ当レリ。

第三章　寛城

第一節　位置及状況

寛城ハ旧熱河ノ駐防地ニ属シ、今ハ平泉県管下ニ隷セリ。市街ハ瀑河口ノ北東六十支里、同河ノ左岸喜峰口関ヲ出デテ、平泉、赤峰街道上ニ位置スル一条ノ街ヨリ成リ、平泉ヲ去ル事南方九十支里、喜峰口ノ北六十支里ニ位ス。

第二節　戸口及人口

寛城ハ戸数二百五十、人口ハ約二千内外トス。

第三節　行政機関

巡警局、巡防隊、税局、郵局、小学校モアリ。

第四節　商業

当市ニハ八商務分会アリ、大小ノ商舗約六十余店。ソノ主ナルモノヲ挙グレバ左ノ如シ。

焼錫（義許永）、糧桟（同盛永、福徳長、裕祥徳、永順成、徳裕長、広泰永、万盛永、広興永、永慶成）、布荘（慎茂永、錦泉裕、裕慶和、永増布局）、新貨舗（福許永、同発永（京貨）、双発永（京貨）、徳発永、徳順興）、皮行（徳裕興（兼糧桟）、中谷号、永聚成（兼雑貨））、油行（公聚徳）、麻行（徳順和、徳順成）、菓子行（永徳成、永興成〈兼雑貨〉）、首飾舗（万順局）、香房（永利成）、洋行代弁（外国洋行、平和洋行、禮和洋行）。

商況　　当市ハ灤河水路ニヨリ平泉、赤峰ニ連絡シ、陸路喜峰口ニ出入スルモノヽ多クハ当市ヲ

経由スルヲ以テ、赤峰街路上ノ小都邑トシテ重視サレ、当市及ビ商範囲ニ供給スル輸入品トシテハ、京貨、紙類、各種砂糖、布疋等ナリ。北京、天津ヨリスルモノハ村南ノ倉ヲ経由シテ、灤州、楽亭ハ水路、青河口ニ到リテ当市ニ連繋シ、又連化ヨリハ雑貨ヲ仰ゲリ。

次ギニ輸出品トシテ、四囲ノ村落ヨリ上市スル穀物アリ。畜産ハ例年陰暦ノ七月十七日ヨリ以降毎月六回、二、七ノ日ニ於テ開市取引ヲ行ヒ、而シテ畜毛ノ集散ハ甚ダ多カラザルモ、一ケ年約四、五百斤、畜皮ハ一千枚ニ上リ、洋行代弁店ヨリ皮行ノ買収ニ帰シ、主トシテ天津ニ販出ス。

又当市ノ特産トシテ、東方缸窰溝産出ノ水甕、茶壺、茶碗等アリ、専ラ赤峰、平泉乃至長城外市場ニ販出サル。且ツ附近ニハ石炭坑一個所アリテ、一日ノ出炭量ハ約四千斤ニシテ三斤三角内外ヲ算シ、附近ニ消費ノ他平泉ニ販出セリ。

第五節　交通

当市ヨリ主要ノ各地ニ到ル交通里程ヲ挙グレバ即チ次ノ如シ。清河口七十支里、潘河口七十支里、瀑河口六十支里。

当市輸入ノ雑貨、運貨ハ大約次ノ如シ。遵化毎百斤　銅貨三百個、天津　毎日百斤　銅貨六百個、村南倉毎百斤　銅貨四百個。

又当市ニ瀕セル瀑河ハ例年増水季ニ舟楫ヲ通ジ、二、三十隻溯江ヲ見ル。主トシテ之ニハ穀物ヲ塔載シテ湾河ニ出ヅルモノトス。

第四章　平泉

第一節　位置、沿革、地勢

此地ハ旧名ヲ八溝ト称シ、瀑河ノ上支流ナル峡谷中ニアリ。長サ二十余里ニ亘ル東西ニ長キ市街ヲナス。赤峰ノ未ダ発達セザル以前ハ国外第一ノ市場ナリシガ、赤峰ノ発達スルニ随ッテ漸次ニ衰頽ヲナセリ。殊ニ最モ有名ナリシ毡鞋、焼酒ノ製造ハ旧日ノ面影ノナキ有様ニシテ、今ハ只喜峰口ヲ経テ関内部河北省ノ天津地方ニ往来スル物質ノ通路ニ過ギズト云フモ、不可ナル事ナシトス。

北ニ猴山、南ニ象山、祀山、老姥冷嶺アリ、東ニ獅子鳳凰山、南東ニ瑠璨山等アリテ、夏ノ山色ハヤヤ愛スベキモノアリト雖モ、是亦樹木ノ繁茂セル昔日ノ光景ニ比スベクモ非ズ。熱河ノ南部ニシテ、河北及万洲ニ近キ地方ハ昔ヨリ比較的ニ往来スルモノ多ク、即チ此地ハ三座塔、塔子溝ト共ニソノ衝ニ当リ、早クヨリ漢人ノ移住往来多カリシガ、雍正十年（一七三二年）、蒙漢人間ノ事件ヲ審理セシメ、初メテ理事同和ガ設ケラレ、乾隆四十三年ニ至リテ平泉ト改メ、承徳府ニ隷属セシメ、民国二年平泉県ト革（アラタ）メラル。管内ハ喀喇沁中旗ノ全部ト同管旗ノ一部トヲ包含ス。

第二節　戸数、人口

管内　　面積ハ六万七千五百方里ニシテ、戸数ハ十万二百十六、人口ハ四十三万九千百五十八人トス。今是等ヲ細別スレバ次表ノ如シ。

戸、人種 / 城郷	戸口	漢人	蒙人	回民	計
県城	戸	2,997	837	419	4,252
四郷	〃	68,916	19,682	9,709	98,307
(合計)		71,913	20,519	10,128	102,560
県城	男	8,657	2,187	1,305	3,149
	女	4,005	1,204	528	5,791
四郷	男	166,499	46,210	22,970	235,675
	女	131,159	37,006	17,982	185,143
(合計)	男	175,152	48,397	24,275	247,824
	女	135,160	38,210	18,564	197,934
外人	二人	(宣教師)			

第三節　貿易

大正十一年中ノ貿易総額ハ二百七十万八千八百四十一元ニシテ、其内ニテ土貨八百四十六万五千六百八十四元、即チ全体ノ五割四分一厘ヲ占メ、外来品ハ百二十四万三千百五十七元即チ四割五分九厘ニ相当セリ。是ヲ類別スレバ即チ次ノ如シ。

類別	土貨	外来品	計
糧食	733,218	146,495	879,713
烟酒茶糖	381,300	36,301	417,601
薬品	3,489	17,531	21,000
乾菜	203	36,697	36,900
牧畜	315,025		315,025
油蠟・膠漆	1,928	35,753	37,681
緞綢	4,871	290,945	295,816
薬材	834	666	1,500

類別	土貨	外来品	計
皮張絨毛	24,321		24,321
雑目		7,903	7,903
五金		8,245	8,254
磁料		5,458	5,458
竹木・棕籐	425	56,788	57,213
玉石・珍玩		36	36
糸毡毯	60	41,035	41,095
顔料	30	184,573	184,603
綢緞布定		374,731	374,731
合計	1,465,684	1,243,157	2,708,841

穀物ノ集散高ハ一ケ年三四万石ニシテ、今之ヲ大別スレバ次ノ如シ。

高粱一一、二〇〇石、谷子一一、二〇〇石、大麦一、四〇〇石、蕎麦一、四〇〇石、元豆一、四〇〇石、芸豆八〇〇石、黒豆七〇〇石、緑豆三六〇石、小豆一四〇石、黍子四二〇石、大米一〇〇石、麻米子七〇石。

此他毛皮一、二万枚、薬材五、六万斤。

〔備考〕

高粱、谷子、元豆、芸豆ノ四割ハ簡口外ニ移出セラレ、其内ニテ高粱、谷子ハ盧龍、永平、楽亭ニ元豆ハ県外ニ、吉豆ハ天津ニ移出セラル。

主ナル商店ヲ挙グレバ左ノ如シ。但シ等級ハモト警察及ビ学校費ノ負担額ヲ示シタルモノトス。

商号	営業	財主	等級
天泰泉	焼鍋	干姓	一等1ケ月22元
吉箋泉	〃	呉姓	〃
湧厚長	〃	蒲姓	〃
永泰泉	〃	司姓	〃
広和衣	〃	孟姓	〃
信合成	〃	邱姓	〃
協銭長	〃	胡姓	〃
箋源長	〃	龔姓	〃
明徳堂	薬舗	唐姓	〃
存仁堂	〃	王姓	〃
徳寿堂	〃	湯姓	〃
宝泉堂	薬舗	盧姓	〃
通盛店	粮舎	夢姓	〃
通盛公司	烟草雑貨	曹姓	二等1ケ月18元
亜細亜	洋油	徐姓	〃
永義成	京貨薬材	王姓	〃
万順店	粮店	馮姓	〃
公益店	〃	顧姓	〃
三義店	〃	胡姓	〃
永順店	〃	陳姓	〃
魁通店	〃	万姓	〃
三通遠	布舗	姜姓	〃
通盛長	〃	曹姓	〃
振興徳	〃	姜姓	〃
振興号	〃	〃	〃
致中和	京貨	蔣姓	〃
致中桟	京貨	蔣姓	〃
広合成	布舗	孟姓	〃
玉成染	染局	魏姓	〃
徳裕興	布舗	韓姓	〃
金蘭斎	菓子舗	蘇姓	三等1ヶ月10元
協同信	布舗	昌姓	〃
福記	布荘	李姓	〃
恒記	京貸	張姓	〃
徳発合	粮舗	呉姓	〃
蒲盛成	布舗	武姓	〃
魁記	布荘		〃
永発成	布舗		〃
瑞盛号	〃		〃
聚義成	布舗		〃
万泰昌	雑貨		〃
徳発長	〃		〃
永盛店	〃		〃
復記	粮舗	王姓	〃
徳記	雑貨	沈姓	〃
義記	〃	韓姓	〃
厚記	〃	孔姓	〃
永来店	粮舗	梁姓	〃
長春蓋	雑貨	閻姓	〃
慎徳興	布店	王姓	〃
永盛成	〃	許姓	〃
聚慶昌	布店	徐姓	〃

銀行　熱河興業銀分店

屠宰類数、牛六十五頭、羊一万五千頭、猪九千四頭、合計二万四千六十九頭。

第四節　警察官ノ配置

警察署ニハ所長ノ他ニ巡官六名アリ。全県ヲ六区ニ分ケテ、各区ニ於ケル巡警ノ配置ハ左ノ如シ。中区七五名、東区一〇一名、西区八〇名、南区一〇〇名、北区六〇名、北区一〇四名、馬巡八一名、計六〇一名。

警察費　全境ノ警察費ハ年額五万七千元ヲ要シ、市中ニ於ケル収入ハ七千元ニシテ、牲口捐トシテ家畜一頭ニ付、銅元四個宛ヲ課シ、ソノ収入二千余元。粮捐一石ニ付同銅六個ヲ収入シ二千余元、商捐三千余元ナリ。

警察官ノ俸給。警佐六十元、巡官二十元、巡長ハ十五元、巡警五元一六元一七元、馬巡八元、馬巡長十二元、馬巡ハ馬料ハ自弁ナリ。

第五節　諸機関

学校　高等小学校一、初等小学校七十三（生徒二、二六〇名）、教員八十一名、女学校二（教員三名）、生徒七八名）。

学校費――全県年額一万二十元ヲ要シ、必要ニ応ジテ各地ニ於テ徴収ス。

寺廟　喇嘛庙七、庙一〇、祠一〇、寺一、回々教ノ寺二、福音堂一（教師一、生徒二二〇名）、天主堂（上台子ニアリ、生徒四十名、信徒五百名）。

電話局　三等局

郵便局　一等局ニシテ、管内ニ於ケル代弁所ノ所在地ハ次ノ如シ。六溝（九十里、一日）、大夫溝（五十里、半日）、黄上梁土（六十里、半日）、八里罕甸子（百二十里、一日）、大営子（百四十五里、二日）、二座甸（百五十五里、一日半）、瓦房（百九十五里、二日）、大明城（百五十五里、二日）、貴人城（南、百二十里）。

〔備考〕 淩源（百八十里、二日）、承徳（百八十里、二日）、赤峰（五日）、唐山（二日半）。

徴収局　分局ハ嵩城ニアリ、分卡ハ党瓏、小寺溝、杜家窩舗ニアリ。既往五年ニ於ケル徴収額ハ即チ次ノ如シ。大正五年二六、五一一元、〃六年二四、七六二元、〃七年二四、四五七元、〃八年二四、三三七元、〃九年三〇、四二一元（是ハ比較的ノモノナリ）。

〔備考〕

出産税ハ牲畜及ビ粗食ヲ以テ大宗トシ、落地税ハ雑貨ニシテ、台営五割、京津四割、余県一割ノ割合ナリ。

菸酒公売費　一ヶ年ノ税額（大正十年十二月）七万六千四百十二元ニシテ、其内酒捐五万四千四十二元、公売費二万千八百三十元、菸酒税五百四十元ナリト。然レドモ大正三年ヨリ七年ニ至ル五年間ノ酒捐ヲ見ルニ、大正三年ガ三四、一八二元、同四年三一、七五〇元、同五年三一、八〇〇元、同六年二二、九〇〇元、同七年二三、二〇〇元トアリ、其間ニハ大ナル差異アリトス。

平泉県職業別

職業	員数	職業	員数
政員	4	道士	140
官吏	9	農業	153,831
公吏	23	鑽業	116
商業	18,896	労働	27,110
工業	23,449	娼妓	103
雑業	15,520	無職	182,420
教員	217	医生	204
生徒	3,106	馬太夫	92
僧侶	280	合計	425,522名

第五章　自平泉至赤峰主要鎮

第一節　黄土梁子

位置――平泉ノ北六十支里、承徳ヘ二百四十支里、淩源ヘ百八十支里、赤峰ヘ三百四十支里。

戸数――五十戸、店一。焼鍋ニ義慶亨アリ。

第二節　五十家子

平泉ノ北方百支里ニ在リテ、赤峰ヘ三百支里、双庙ヘ四十五支里、八里罕甸子ヘ十八支里、大明城ヘ九十支里、黄土梁子ヘ四十支里、大営子ヘ六十支里、卑西部営子ヘ六十支里、淩源ヘ百六十支里、父爺府ヘ小道百九十支里、大道ヘ二百四十支里、承徳ヘ二百支里ナリ。

第三節　雙廟

平泉ヘ百五十支里、八里罕子ヘ五十支里、赤峰ヘ二百四十支里、熱河ヘ二百三十支里、淩源ヘ百二十支里、建平ヘ百八十支里。

市況　商戸一、店六戸。　以上

第四節　楼子廟（二道浦子）

戸数一百五十戸

位置一赤峰ヘ九十支里、平泉ヘ二百三十支里、大城子ヘ百支里、承徳ヘ五百支里、公爺ヘ百支里、大明城ヘ百六十支里。

東南二十支里ニハ五家子ノ炭坑アリ。柴煤ヲ産ス。此石炭十斤ハ、元宝炭十五斤十六分ノ七ニ相当ス。

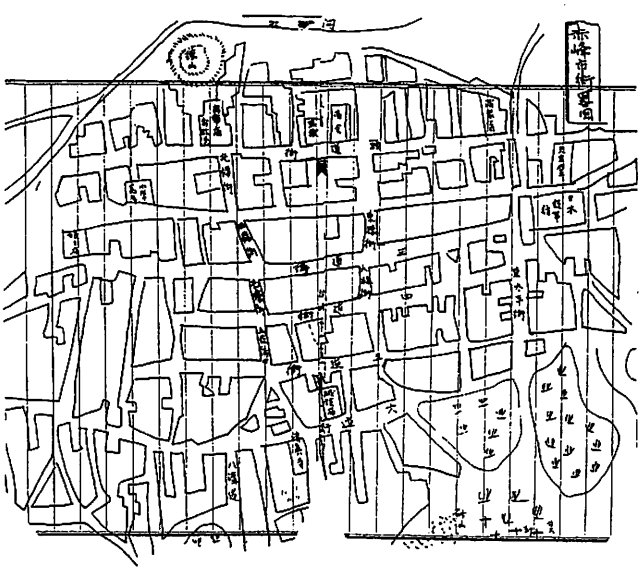
第六章　赤峰

第一節　位置、地勢

赤峰ハ東蒙古ノ中枢ニ位シ、北京ヲ去ル事東北約九百支里、京奉鉄道錦州駅ヲ西北ニ距ル事五百四十支里（一説ニハ六百支里ト云ハル）、熱河ニ到ル四百三十支里ニ位シ、赤峰県治ノ所在地ニシテ、原名ヲ烏蘭哈達（ウランバータ）ト云フ。蒙古語ニテ烏蘭ハ紅ヲ、哈達ハ山ヲ意味ス。即チ紅山ノ義ニシテ、市街ノ東北約五支里、英金河畔ニ直立セル赭色ノ奇峰ニ因ミ命名セルモノニシテ、赤峰ハ其漢訳名ナリ。漢人ハ普通哈達ト略称ス。此地ハ風光明眉ニシテ、紅山ノ揚柳ノ相対スル景色ハ吾人ハ蒙古辺陬（ヘンスウ）ト思ハシメズ。

第二節　沿革

赤峰ハ今ヲ去ル事百数十年前ヨリ、既ニ満漢人ノ来住スルモノアリテ、蒙古貿易ニ従事シツヽアリシガ、雍正七年（紀元二千三百八十九年）此処ニ烏蘭哈達庁ヲ置キ、尓来招民開墾ヲ奨励シタルノ結果、乾隆、嘉慶年間ニ至リテ一層ニ住民ハ増加シ、商況ハ最モ殷盛ヲ極メタリ。然レドモ後、東清鉄道ノ開通ハ、当市繁栄ノ一部ヲ北満ニ奪ヒ、前清ノ末路帝室ノ衰退ト共ニ商況ハ頓ニ粛寂ノ色ヲ呈セリ。



第３図　赤峰の市街略図

宣統二年ニ至リ開魯、林西ノ二県ヲ新設シテ之ニ属シ、ソノ振興ヲ図ラントセシモ、官吏ノ腐敗ハ遂ニソノ実績ヲ挙グル事態ハズ。越エテ民国二年熊布齢ノ熱河ノ都督トナルヤ都統城ヲ移シ、征蒙軍ヲ侵入セシメテ蒙古匪賊ノ騒擾ト南下ニ備エタレバ、市場ハ初メテ殷盛ヲ極メ、瀕死ノ赤峰ハ漸クニ復活スル事ヲ得タリ。今ヤ東蒙ニ於ケル最大ノ物資ノ集散市場トシテ、日ニ益シテ隆盛ニ向ヒ、且ツ近ク商埠地ノ設定及ビ鉄道ノ布設ト相俟ッテソノ発展ヲ期セントシツヽアリ。

第三節　気候

(一)　赤峰最近二ケ年間気温表（摂氏）

月別	大正12年		月別	大正13年	
	最高	最低		最高	最低
1月	8.0	0.23	1月	5.00	0.25
2月	4.0	0.22	2月	0.10	0.21
3月	20.0	0.17	3月	15.00	0.18
4月	29.0	0.07	4月	25.00	0.12
5月	31.0	3.00	5月	35.00	18.00
6月	39.0	9.00	6月	41.00	20.00
7月	41.00	12.00	7月	42.00	20.00
8月	36.00	10.00	8月	40.00	17.00
9月	27.00	5.00	9月	34.00	14.00
10月	22.00	0.70	10月	22.00	6.00
11月	10.00	0.20	11月	0.80	0.18
12月	4.00	0.24	12月	0.10	0.20

〔備考〕

本表ノ数字ハ北向キノ寒気甚ダシキ、太陽ノ光線ヲ避ケタル個所ノ屋外ニ設置セル寒暖計ノ示指シタル度ニテ、平均数ヲ示セルモノナリ。畢竟（ヒツキヨウ）スルニ最高平均四二度、最低平均二四度トス。

(二)　最近二年間晴雨表

月別	大正12年				月別	大正13年			
	晴	曇	雨	計		晴	曇	雨	計
1月	31日	0日	0日	31日	1月	31日	0日	0日	31日
2月	26日	2日	0日	28日	2月	25日	4日	0日	29日
3月	28日	1日	2日	31日	3月	31日	0日	0日	31日
4月	29日	1日	0日	30日	4月	28日	2日	0日	30日
5月	27日	2日	2日	31日	5月	28日	2日	1日	31日
6月	25日	3日	2日	30日	6月	28日	0日	2日	30日
7月	22日	6日	3日	31日	7月	25日	3日	3日	31日
8月	22日	7日	2日	31日	8月	21日	8日	2日	31日
9月	29日	1日	0日	30日	9月	29日	1日	0日	30日
10月	28日	2日	1日	31日	10月	30日	0日	1日	31日
11月	26日	2日	2日	30日	11月	28日	1日	1日	30日
12月	31日	0日	0日	31日	12月	31日	0日	0日	31日

〔備考〕

晴後ノ雨又ハ曇後晴ノ如キハ、一日間ソノ時間ノ多キ部分ニ算入セリ。

以上ノ如クニ四季ヲ通ジテ晴天多ク、空気乾燥シ七、八月ノ雨季ニハ驟雨多ク、霖雨ハ稀ニ降雨三、四日ニシテ晴レ、又晴天二、三日ニシテ再ビ降雨ヲ見ル。ソノ最大降雨ノ時ニテモ地上ニ溜ル雨水ハ三、四寸位トス。降霜ハ九月下旬若クハ十月ノ初旬ニシテ、春霜ハ絶エテ無シ。積雪ハ尺余ニ及ブハ稀ニシテ、平年十月下旬ニ至レバ地下一、二尺ハ凍結シ、十二月ハ四、五尺ニ及ビ、三月中旬ヨリハ解氷シ、四月上旬ニハ全ク解氷ス。風位ハ五月ヨリ九月ニ至ル間ハ西南風、南風又ハ東南風多ク、十月以降ハ北風及ビ北西風ニ変ジ、風力ハ概ネ強烈ナリ。

第四節　地質

蒙古誌ヲ見ル。赤峰附近ノ土質ハ黄土ノレースト沖積層ノ砂質土壌ヲ以テ構成セラレ、黄土レースト黄土ハ大部分ハ山腹丘陵及ビ平地ニ分布セラレ、一部砂質土壌ト錯綜セルモノ多シ。為メニ赤峰附近ハ沖積層ノ砂質土壌ナルガ故ニ、農耕ニハ全ク有望ノ地トハ認ムル事能ハザルモ、西南ニ進ムニ従ヒ山間ニ往々満州地方ノ土質ト相似タルモノアリ。同地方ハハヤ農耕ニ適スベキモ、ソノ他ノ地ハ農耕ノ価値ナキ土地柄ナルガ如ク、且ツ所謂蒙古風ナル土砂風ノ襲来濛々トシテ、天地晦冥昼尚ホ呎尺ヲ弁ゼサルニ至リ、而シテ春季ノ候ヲ以テソノ最モ甚ダシキノ季節トナシ、実ニ衆人ノ嫌悪ヲ呼ブノ地ナリトハ、一般世人ノ感ナルガ如シ。

第五節　戸数及人口

赤峰市ノ戸数ハ約三千三百戸、人口ハ約二万九千ト称セラレ、其内ニテ山東人ハ最モ多数ヲ占ムルモ、主ニ労働者及ビ、小商人階級ニ属シ、ソノ中堅タル商人ハ直隷、山西人ナリ。

外国人ニハ天主堂ノ宣教師四名ニシテ、日本人ハ十八名ニシテ、即チ、領事館員ト満蒙公司、他ニ医師一名（赤十字社員）、歯医師一名ナリトス。

（昭和五年六月末現）

第六節　交通

赤峰ノ中心トセル通路ハ一ツノ水運モナク、皆陸路ノミニシテ、蒙古ノ各部ニ通ズルモノト、重要都市ニト連絡スルモノト二ツアリテ、前者ハ概ネ峻嶮ナラザル波状地帯ヲ通過スルモノニシテ、倭草ヲ以テ掩ハルヽ硬質土ナルニ加ヘテ、車馬ノ往来ハ頻繁ナラザルヲ以テ通行ハ容易ナルモ、商業通路トシテノ価値ナシ。後者殊ニ満州及ビ京、津地方ニ通ズルモノハソノ往来ハ頻繁ニシテ、大車ノ鉄轍ノ跡深ク刻サレ、石塊モ亦黒々トシテ露表セラレ、又峻嶺モ諸處ヲ遮ギリ、河川モ亦概ネ橋梁ノ架セラルヽナク、石礫堆裡ヲ通ジテ商業交通ノ幹路トナセリ。今左ニ各都市ニ到ル里程表ヲ掲グベシ。

地別	距里	地別	距里
烏丹城	180 支里	経棚	480 支里
大坂上	420 支里	平泉	400 支里
開魯	680 支里	古北口	660 支里
錦州	540 支里	西烏珠穆必	800 支里
承徳	470 支里	烏丹城経由	500 支里
多倫	600 支里	朝陽	360 支里
凌源	480 支里	天津	900 支里
林西	460 支里	囲場	180 支里

又運輸機関ニハ各地ト同ジク、大車、牛車、駄子、轎車、駄轎ノ五種アリ。

(一)　市内交通機関　三道街糧市ニ、日々十余輌ノ、所謂小車ト称スル辻待支那馬車アルモ、是レ附近村落来往客ノ乗用ヲ待ツモノニシテ、ヤヽ大ナル商戸、官吏、縉紳等ハ皆自家専用ノ小車ヲ有スルノ他、別ニ交通機関トシテ挙グベキモノナシ。

(二)　通信機関

(イ)郵便局　頭道街老爺庙内ニ二等郵便局アリテ、一般事務ノ他ニ為替ヲモ取扱フ。北京ヘハ一日一向発達シ、五日間ニテ到達スル筈ナルモ、普通ハ七、八日ヲ費ヤシ、天津、錦州、林西方面ヘハ隔日一回逓送シ、錦州ヘハ六日間ニテ到達ス。

(ロ)電信　直通電信ハ北京及ビ林西線ノミ。

(ハ)電話　コハ官用電話ニシテ、一般商戸ノ之ニ

加入スルモノナシ。機械ハ巡警局ニアリ。巡警二名ヲ付シ監視セシム。尚ホ最近ニ電気公司ヲ設立ノ議アリト云ハル。

第七節　市街ノ概観

市街ハ東方ニ砂丘連旦シ、北西ハ英金河ニ臨ミ、東西約五支里、南北三支里ニ及ビ、幅十二間ノ大道六条東西ニ連通シ、北ヨリ起リテ頭道街、二道街、三道街、四道街、五道街、六道街ト名付ク。二条ノ構造ハソノ南北ニ通ジ、一ヲ西横道、他ヲ東横道ト称シ、路幅約二間アリ、ソノ他数条ノ小街ハ全通セザルモ街衢整然タリ。主ナル商戸ハ二道街、三道街及西横街ニ蒐集シテ商業殷盛ノ区ヲナシ、穀物市場亦三道街ノ東西三ケ所ニ、馬市ハ二道街ニ開カル。県署ヲ始メ主ナル官公署ハ多ク頭道街アリテ、五道街、大道街ハ主モニ旅店及ビ住宅ガソノ多数ヲ占ム。

家屋ハ主トシテ煉瓦造及ビ瓦葺ノ平家建ニシテ、楼層トシテハ二道街ニ天主教堂及ビ三層ノ住宅並ビニ西横街清真寺ノ塔堂ハ高ク聳立セルヲ見ル。

街路ハ一帯ニ天然ノ砂土ナルヲ以テ、降雨ニ際シテハ街上泥海ト化シテ車軸ヲ没シ、旱天ニ際シテハ塵挨風ニ天ヲ蔽ヒ日輪暗惨タルアルモ、道幅ハ広大ニシテ七頭挽キノ馬車数十、駱駝幾百ノ家畜、幾千ノ土民モ自由ニ往来スルヲ見ル。殊ニ城壁ヲ有セザルヲ以テソノ商業ノ発展ニ伴ヒ、自由ニ膨脹拡大シウベントス。

第八節　市政、官公衙、其他ノ諸機関

赤峰ノ市政ハ自然制度ニシテ、商務会ソノ牛耳ヲ執リ、之ニ農務局、工部局ヲ附シ土着ノ有志ヲ以テ会員トナシ、経常費大約二万両ハ毎年数回ニ分チテ市民ヨリ徴収ス。今左ニ当地ニ於ケル官公署ヲ挙グレバ、赤峰県公署、警察署、監獄、軍隊、同司令部、郵便局、電報局、電話局、税局、塩務局、車税局、屠税局、烟酒公売局、翁午特旗地局、交渉局、商務会、農務会、銀行、教育会、師範学校、高等初等小学校、耶蘇教小学校、蒙古学校、喇嘛廟、関帝廟、回々寺院、天主教堂、福音堂及ビ我領事館等ノモノアリ。我帝国領事館ハ満蒙条約ニヨリ、大正六年二月二十七日ニ開館セラレタルモノナリ。

第九節　人情及宗教

赤峰居住民ハ概ネ直隷、山東、山西等ヨリノ移住者ニシテ、商業二分、農業五分ヨリシテ成リ、概ネ質朴倹素ニシテ、寸ヲ得テ寸ヲ守ルノ観アリ。堅実ヲ尚グノ風アリテ、殖民地トシテハ、ソノ貨殖ニツイテ貧弱ナルヲ思ハシムルモノアリ。亦極メテ円滑ナルモノヽ如シ。

漢人ハ依然トシテ蒙古人ヲ蔑視シ、支那官憲ノ勢力ノ増加ト共ニ、当然ニ納附スベキ地租サヘモ之ヲ拒マントスルノ傾向ヲ有セリ。各王府ニ就キ聞クニ、地租ノ約半分ハ漢人ノ滞納者ナリト。以テ此間ノ事情ヲ明カニスルニ足ルベシ。

宗教ハ天主教ヲ始メ回々教、耶蘇教等ノモノニシテ、就中回々教多ク、天主教之ニ次ゲリ。耶蘇教ハソノ信者未ダ多カラズ。何レモ一定ノ地域ヲ割シテ教堂及ビ礼拝堂ヲ建設シテ各信仰ヲナセリ。天主教ハ今ヨリ六十年前ニ、回々教ハソノ以前ニ、耶蘇教ハ二十年ニモ至ラズ開教セラレ、天主教ハ赤峰ヲ中心トシテ附近ニ百名乃至二百名ノ教民ヲ有シ、総計ニテ約一千二百名ニ達セリ。

第十節　貨物ノ集散概況

赤峰ハ熱河、蒙古ノ中枢ニシテ四通八達シ、西南熱河ヲ通ジテ北京ニ、平泉ヲ経テ天津ニ、東南朝陽ヲ経テ錦州ニ通ジ、更ニ営口ヲ連ネテ北西、林西、経棚、北東開魯ニ達シ、二百余年来是等諸都市間ノ百貨ノ需要供給地トシテ発達シ来レルモノナリ。附近ノ一帯ハ農牧ノ交界地帯ニシテ、農産物モ少カラズ。且ツ又以上ノ各地ハ数日行程ニシテ、遊牧地帯ニ接セルヲ以テ、農牧産物ノ来集スルモノ夥シク、久シク東蒙ニ於ケル一大市場トシテ優勢ナル市況ヲ維持シ来レルモ、東清鉄道ノ開通後ハ哲里木盟地方ノ貿易ハ北満ニ奪ハレ、又近クハ民国ニ入リテヨリ屢次蒙匪騒擾南下ノ影響ヲ受ケ、市況ハヤヽ粛条ノ色ヲ呈セリト雖モ、今尚一ケ年ノ物資ノ集散額ハ七百万元以上ニ達スト

称セラレ居レバ、尚依然トシテ東蒙ニ於ケル最大市場タルヲ失ハザルノミナラズ、北方ノ秩序ノ回復ト共ニ、市況ノ恢復スベキハ凝フ所ニ非ルモ、唯北方林西ノ発達ハ当地一部ノ繁栄ヲ奪フノ一因タルベキモ、将来布設セラルベキ蒙古鉄道ハ、必ズヤソノ中心ヲ赤峰ニトルノ運命ニアルヲ以テ、交通ノ発達ハ鉱山ソノ他諸工業ノ勃興ヲ促シ、近ク商埠地ノ設定ハ、農事ノ改良ト相俟ッテ、益々赤峰ノ将来ヲシテ多望ナラシムベキヲ信ゼシム。

第十一節　商業

㈠　商業機関　商務会――頭道街ニアリ、真下ニ農務局、工務局アリテ、数名ノ事務員ガ執務セリ。前述ノ如ク赤峰ノ市況ハ自治制度ニシテ、商務会ハ其主催ヲ握リツヽアルモ、毎年約二万両ノ経常費ヲ処弁シツヽアルモ、現在ノ会長ハ団長及ビ知事ノ操縦スル所トナリ、市政ヲ討議スベキ董事会、自治ノ目的ヲ以テ成立セル団練局等ハ官憲ノ圧迫ニヨリ已ニ解散シ、商業上緊要欠クベカラザル金融機関ハ、銭舗、当舗及ビ官銭号及ビ交通銀行ニ一任シ、電話ハ凡ベテ官憲ノ架設スル所ニ委ネラレテ、何等他ニ発達ノ道モナク、唯僅カニ官署ノ用務ヲ弁ズルモノニ過ギザルガ如シ。

㈡　店舗

㈠支那商店　現在商家千余家ニ達シ、雑貨舗、粮店、塩舗、写舗、薬舗、鉄舗、毯子舗、木匠舗、焼鍋、油房、磨坊、染坊、鉄爐等ヲソノ主ナルモノトス。今左ニ赤峰内ノ主ナル資産家ヲ挙グレバ左表ノ如シ。

原籍	住所	氏名	資産額	備考
山東	三道街	朱宗琮	700,000元	貿易商
蒙古	南国大胡国	鮑熹	500,000元	土地家屋ノ収入
山西	頭道街	張子恒	200,000元	商業
〃	二道街	李連其	200,000元	西元宝山炭磁株主
山東	三道街	揚子彬	100,000元	前熱河団練長
山西	三道街	張振釈	300,000元	商業
〃	〃	許鑑堂	300,000元	〃
山東	頭道街	王文揚	300,000元	商業
山西	二道街	支棟	300,000元	農業
〃	〃	杜克正	300,000元	西元宝山炭磁株主

〔備考〕数字資本ハ単位元ナリ。　（大正十四年八月現在）

㈡外国商店　外国商店ノ代理店ハ英美煙公司ヲ始メトシテ、即チ謙信洋行（独）、徳和洋行、暮麟洋行（独）、永興洋行（仏）、礼和洋行（独）、革泰洋行（英）、瑞和洋行（英）、興隆洋行、克立洋行、瑞記洋行（独）、福山洋行（独）、平和洋行（英）、立興洋行（仏）、怡和洋行（英）、美隆洋行（米）、高林洋行等ナリ。

穀物ノ集散高ハ一ケ年三四万石ニシテ、今之ヲ別スレバ次ノ如シ。

高粱一一、二〇〇石、黒豆七〇〇石、谷子一一、二〇〇石、緑豆三六〇右、大麦一、四〇〇石、小豆一四〇石、蕎麦一、四〇〇石、黍子四二〇石、元豆一、四〇〇石、大米一〇〇石、芸豆八〇〇石、麻米子七〇石。

此他毛皮一、二万枚、薬材五、六万斤。

〔備考〕高粱、谷子、元豆、芸豆ノ四割ハ筒口外ニ移出セラレ、其内ニテ、高粱、谷子ハ盧龍、永平、楽亭ニ、芸豆ハ天津ニ移出セラル。

主ナル商店ヲ挙グレバ下ノ如シ、但シ等級ハモト警察及ビ学校費ノ負担額ヲ示シタルモノトス。

商号	営業	財主	等級
天泰泉	焼鍋	干姓	一等1ヶ月22元
吉箋泉	〃	呉姓	〃
湧厚長	〃	蒲姓	〃
永泰泉	〃	司姓	〃
広和衣	〃	孟姓	〃
信合成	〃	邱姓	〃
協銭長	〃	胡姓	〃

右ノ商店中ニテ英美煙公司及ビ謙信洋行代理店ヲ除クノ他、主ニ毛皮ノ収買ニ従事シツヽアルモノニシテ、其従業員ハ皆支那人ニシテ、外国人ハ羊毛季節ニハ臨時ニ出張シ来ルモノニ過ギズ。

㈢　市場

㈠糧市　糧市即チ穀物市場ハ穀物ノ集散期ニ際シ、日々三道街ノ東西ノ二個所ニ於テ天明ヲ待ッテ開市セラレ、日々ノ入車数毎輌二石乃至五石積ノ大車約五百輌ナリト云フ。西市場ハ穀物ノミナラズ各種ノ露店アリテ終日之ヲ開市スルモ、東市場ハ午前六時頃ニ至リテ止ム。

(ロ)牛馬市　牛馬市ハ二道街、東横街ノ交叉点ニ於テ日々午前九時ヨリ十二時迄開市セラレ、牛馬販子ト称スル回教徒ノ仲介業者ニヨリ取引セラルヽモ、ソノ上市数ハ多カラズ。

第十二節　工　　業

各種ノ製造工業ハ総テ土法ニシテ、其規模ノ大ナルモノナキモ、コハ亦頗ル盛ニシテ、是等ニツキテ今ソノ概略ニツキテ述ブレバ左ノ如シ。

(一) **焼鍋**　当地工業ノ主ナルモノニシテ現在十七戸三十七班アリテ、一班一日ノ醸造高ハ三百五十斤内外、一個年十万斤ニシテ、三十七班ノ年総出製高ハ三百七十万斤ニ達シ、其過半ハ烏丹城、経棚、林西、多倫、熱河、天宝山、庫倫、開魯等ノ各地ニ移出ス。就中烏丹城、経棚、林西等最モ多シ。

(二) **磨坊**　コハ亦焼鍋ト共ニ当地製造業ノ主要部ヲ占メ大小一百余戸ニ達シ、大ナルモノハ五班装置ヲ有シ、小ナルモノハ半班装置ニシテ、原料ハ小麦、燕麦、緑豆等ヲ使用ス。全戸ニテ一ケ年ノ製粉高四百五十万斤ニシテ、一部ハ凌源及朝陽地方ニ移出セラル。

(三) **油房**　コハ元ト十数戸アリタルモ漸次減少シテ、現在ハ七戸ニ過ギズシテ小規模ナリ。ソノ原料ハ大小ノ麻子ヲ使用シ、一ケ年百二十万斤内外ノ麻油ヲ製出シ、小麻油ハ食料ニ供シ、大麻油ハ車輌用及ビ製革用トス。

(四) **毯子舗**　コハ即チ絨氈ノ製造所ニシテ、総ベテ十戸ナルガ其内ニテ大ナルモノ四戸アリ。原料ハ羊毛ヲ用フルヲ以テ常トスルモ、時ニ牛毛、羊毛ヲ洗滌シテ、之ヲ棒ヲ以テ打チ簀上ニ平均ニ散布シ、巻キテ之ヲ緊結セシメ後簀ヨリ取出シ、足踏又ハ大槌ニテ羊毡ニ製スルモノナリ。而シテ当地ニ於ケル年製造高ハ大小二万枚ニ達セリ。

(五) **製蠟業**　斯業ニ従事セルモノ十余戸アリテ、年製造能力ハ一万斤内外ノモノ多ク、三万斤内外ノモノハ僅カニ二、三戸ニ過ギズ、原料ハ羊油、牛油ヲ主トシ、時ニ大麻油ヲ混ズル事アルモ其質ハ良好ナラズ。

(六) **染坊**　当地ニハ八十余戸ノ染坊アリ。此地ノ製品ハ他地方ノモノニ比シテ長ク変色セザルヲ以テ其名ヲ知ラル。

(七) **甘草「エキス」**　此製造ハ邦人ノ経営ニ係リ、満蒙興業公司アリ。資本金ハ二十万円ヲ有シ、本店ヲ大連ニ置ク。大正六年九月十日赤峰ニ支店ヲ設置セルモ、近来事業ノ不振ナルハ遺憾ナリトス。

以上ノ他ニ製紙、製革、製材、鉄工所等アルモ何レモ小規模ニシテ、特記スル程ノモノナシ。

第十三節　金融通貨

当市ニ於ケル金融機関ヲ挙グレバ、交通、熱河興業両行分行ノ二新式銀行ヲ始メトシ、銭舗、当舗等アリ。然レドモ現時ハ兵燹ノ為皆閉鎖中ニシテ、通貨トシテハ交通銀兌換券、熱河興業銀行兌券、奉天等アリ。

第十四節　日用品価格

(一)　日本品価格表

品名	数量	価格	摘要
白米	1斗	7.30円	交通不便ノタメ意外ノ価格ナル事不少
清酒	4合入1本	1.70円	自10月至翌年5月1日 1.50円
ビール	4合入1本	0.70円	自10月至翌年5月1日 0.60円
醤油	1樽	10.00円	自10月至翌年5月1日 8.00円
味噌	1貫内	1.80円	自10月至翌年5月1日 (1樽5貫匁入) 6.20円
白砂糖	1ポンド	3.80円	自10月至翌年5月1日 3.30円
麦粉			8.10円

(大正十四年八月調)

〔備考〕

日本商品ハ総ベテ錦州ヨリ駄馬便ニ依ルノ他運輸ノ途ナキヲ以テ、従ッテ陰暦六、七、八月ノ三ケ月間ハ運搬業者ハ馬匹一半ヲ割キテ野外ニ放飼シ、自然的ニ駄馬ノ栄養ヲ恢復セシムルノ慣例ナリシヲ、以テソノ使用馬匹ノ半ヲシテ交互ニ休養セシムルタメ、赤峰、錦州間ノ貨物停滞ヲ来シ、固ヨリ法定的ノ制裁ナキヲ以テ運賃率ニ約四割強ノ高値ヲ唱ヘルヲ以テ常トシ、以上本表ノ如ク不測ノ数字ヲ示ス事アリ。コレ即チソノ地理的関係ノ致ストコロニシテ、コレマタヤムヲ得ザルノ次第ナリト云ハザルベカラズ。

(二)支那品物価表

品名	数量	価格	摘要
白米（支）	1斗	14.40	
大麦 〃	1石	27.00	
小麦	〃	48.00	
高粱（支）	1石	26.00	
糯米 〃	〃	130.00	
白粟 〃	〃	58.00	
蕎麦 〃	〃	24.00	
黒豆 〃	〃	27.00	
大豆 〃	〃	28.00	
小豆 〃	〃	30.00	
石油 〃	1箱	11.00	
大麻子油	1石	30.00	
芝豆 〃	〃	30.00	
莞豆 〃	〃	26.00	
瓜子 〃	〃	70.00	
蔴油 〃	100斤	20.00	
小麻子〃	1石	19.00	
芝麻子〃	1斤	0.52	
焼酒 〃	〃	0.32	
紹興酒〃	〃	0.32	
黄酒 〃	〃	0.32	
醤酒 〃	〃	0.30	
豆酒 〃	〃	0.38	
甜油	〃	0.25	
芝麻醤	〃	0.40	
酢	〃	0.04	
豚肉	〃	0.30	日本人ノ用ユル最良ノモノナリ。
鶏肉	〃	0.40	
牛肉	〃	0.22	右同
鶏卵	1個	0.03	日本人ニモ使用シウ
鯉	1斤	0.20	
鮒	〃	0.15	
石炭	百斤		日常ノ燃料トス
木炭	〃	0.40	特別ノ場合ニ使用ス
薪	〃	0.40	焚付用トシテ使用ス

（大正十四年八月調）

〔備考〕

赤峰市場ニ於ケル升ノ一石ハ我日本ノ四斗ニ相当セリ。

第七章　赤峰、開魯間ニ於ケル鎮店

(1) **嶺底下**　戸数三十五戸、附近ハ地味良好ナラズ、放牧ヲ見ルノミ。

(2) **樹林子**　戸数三十余戸、耕地多ク、高粱、麻、煙草ヲ栽培セリ。

(3) **砲手営子**　戸数八十余戸。

(4) **老爺廟**　戸数四十余戸、店一。

(5) **八家子**　戸数八十余戸。高粱、煙草ヲ栽培。放羊、放午ノアル附近ハ水利良ク、農作地トシテ良好ナリ。

(6) **元宝隆**　戸数七十余戸、高粱、粟、大豆、大麻子ヲ産ス。石炭ヲモ産スル元宝山ハ之ヨリ東方二十支里ニアリ。

(7) **邦清溝**　戸数十数戸、安慶溝トモ称ス。東和店アリ。

(8) **房身**　此処ハ開魯ニ通ズル近路ノ分岐点。西分地ニ到ル八支里、五十家子ニ到ル十二支里。

(9) **小哈拉道口**　戸数二百余戸。馬店七十八軒。小学校アリ（生徒二十名）。騎兵六、七十名。二回乃至一、五回位ノ城壁ヲ以テ繞ラサレ、前方二七〇米乃至十米ノ河アリ、ソノ深サハ二・五尺余（干水期）。

(10) **曲家湾子**　焼鍋一軒。、戸数七十戸。馬店アリ。

(11) **新窩舗**　戸数十戸。馬店無シ。

(12) **分家包子**　蒙古部落。戸数三十戸。

(13) **ネーム営子**　戸数五十戸、馬店二軒。

散存セル部落ヲ合スレバ一百二十余戸ニ達スベシ。放馬、羊、牛ヲ見ル。巡警処アリ。作農ニハ罌粟（おうそく）、粟ヲ作ル。

(14) **新廟**　此処ニハ喇嘛廟アリ。

(15) **チャーカンタオハン**　戸数二十余戸。農家多シ。

(16) **五家子**　戸数十戸、店二軒。

(17) **ポオインコワン営子**　コハ蒙古包（パオ）ニシテ、戸数五十戸位アリ。店一。

(18) **トマターメル営子**　コモ亦蒙古包ニシテ、四十余戸。放山羊、羊、牛ヲ見ル。店四軒。

(19) **ハイリトウ**　戸数三十余戸、店三軒。附近ニハ部落散在セリ。農業ニシテ罌粟、粟ヲ作ル。ポオインコワン営子ヨリハイリトウ迄ハ原野ニシテ、北附近ヨリハ作物地ト化シ居レリ。

(20) **ワンホエン**　戸数四十戸。豆、粟、麻等ヲ栽培セリ。

(21) **モンケオポ**　戸数二十五戸。農業ヲ主トス。

(22) **チャーラ営子（シータヲ営子）**　戸数百二十戸。店アリ。附近ハ一望ノ原野ニシテ、高粱、粟ヲ栽培セリ。

第八章　開魯

第一節　位置、沿革

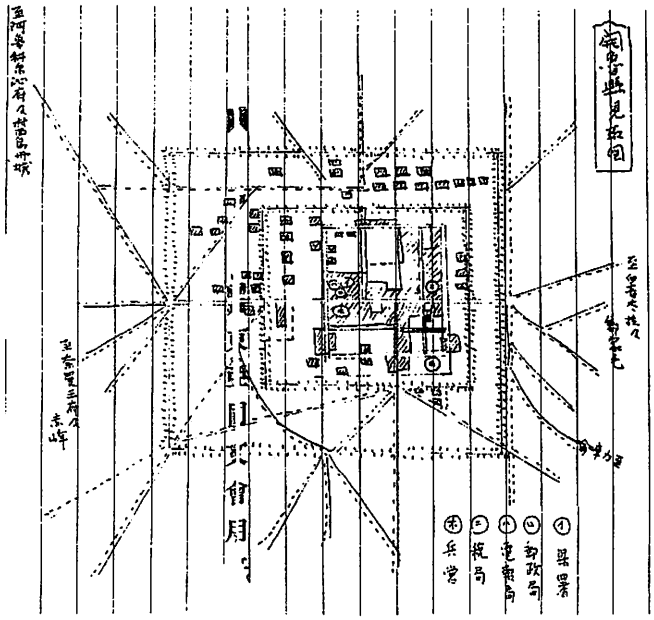
当地ハ原名ヲ「ターリンブルク」ト云ヒ、蒙古王族西札魯特権ナリシガ、光緒三十一年及同三十三年（明治四十年）ノ二次ニ亘リテ開放セラレ、開墾局ヲ設立シ招民開墾ヲ奨励セシヨリ人口漸次ニ増加シ、同三十四年遂ニ置県セラレタルモノニシテ、現今ノ開魯県ハ即チ是レナリ。通遼県城ノ西方約百八十支里ニ位シ、老哈河ノ左岸平野中ニ在リ。今頁下ニ開魯ノ鳥瞰図ヲ掲ゲリ（第４図）。

第二節　気　候

気候ハ摂氏ニテ、最高二十六度、最低零下二十九度。

第三節　人口及戸数

戸数ハ一千二百余ニシテ、人口ハ約八千ト称セラレ、其大部分ハ満漢人ナリ。



第４図　開魯県の見取図

第四節　交　通

南方ハ綏東ニ、西南ハ赤峰ニ、西林西ニ、西北ハ河魯科尓泌王府ニ、東北ハ達尓漢王府ニ通ズル陸路アレドモ、草原、砂漠ノ中ヲ過ギル個所多ク、交通ハ不便ヲ極ム。

今開魯ヨリ各重要地ニ到ル里程及ビ日程ヲ挙グレバ次表ノ如シ。

地名	日程	里程	方向
小庫偏	3日半	300支里	東南
新民屯	5日半	540〃	〃
鄭家屯	5日	580〃	正東
白音太拉	2日	180〃	〃
赤峰	7日	720〃	西南
建平	7日半	700〃	〃
錦州	8日	700〃	東南
朝陽	7日	600〃	〃
北京	16日	1700〃	東南
林西	8日	700〃	〃
烏丹城	6日	700〃	〃
喇嘛廟	20日	1500〃	〃

小車ハ夏季一日七、八支里、冬季ハ一日一〇支里ヲソノ平均行程トス。一日ノ行程時間ハ未明ニ出発シテ、夕刻ニ到着スルヲ以テ普通トス。

大車ハ夏季六、七十支里、冬季ハ一〇〇支里以上ヲソノ行程トス。但シ大車ハ午前ノ出発ハ小車ニ比シテ幾分早発ス。

小車ノ貨銀ハ約左ノ如シ。

夏季	冬季
1日行程2人乗　3元半	1日行程2人乗　3元
〃　1人〃　3元	〃　1人〃　2元半

通信機トシテハ三等郵便局アリ。小包、為替、書留、普通郵便ヲ取扱フモノナルガ、今ソノ逓送状態ヲ聞クニ、北京ニ到ルモノハ赤峰、熱河経由約十四日間ヲ要シ、錦州、営口方面ニ至ルモノハ赤峰、朝陽経由約十四日間、洮南、白音太拉、鄭家屯方面ハ何レモ赤峰経由ニシテ、此地ト小庫偏トノ逓送ハ赤峰経由錦州、義州ヲ経由シテ数十日ヲ要スベク、一般商業取引ハ幸便ニ托スルモノ少カラズ。赤峰、開魯間ハ逓送七日間ヲ規定トスルモ、逓送人ハ四日ニテ致着シ、残ル三日間ハ彼等

ノ公休日トナセリ。

第五節　市街ノ概況

市街ハ東西約一支里半、南北二支里。四囲ニ土壁ヲ繞ラシ、東（鎮遠門）、西（鎮辺門）、南（承化門）、北（宣威門）ノ四門。

民国元年蒙匪ノ擾乱ニ際シ、兵燹ニ罹リ全部悉ク灰燼ニ帰シタリシガ、交通発達、地方産業ノ振興ニ伴ヒ、漸次繁栄ニ向ヒツヽアリシ折柄、大正十三年七月通遼県（白音太拉）ガ洪水ニ襲ハレ、未曽有ノ被害アリテ其前途ヲ危惧サルヽニ至リシト、小庫偏ガ駐在セル遊撃隊ニ荒サレ半死ノ状体ニ陥リタリシニ原因シ、主ナル商店ノ本拠ヲ此地ニ移シタルノ干係上、遽カニ大ナル発展ヲナシ、日ニ日ニ膨脹シ数年前ニ比シテ其戸数ノ如キモ約三倍ニ上リ、四倍ニ凡ベテノ価格ノ騰貴スルノ好況トナリ、前途頗ル有望視サルヽニ至レルナリ。

市内ノ東南隅ニ喇嘛塔アリテ、高サ五丈ニシテ十三層ヨリ成ルモノニシテ、今ヨリ九百年前元朝ノ時代ニ建設サレタルモノナリト云ハル。

第六節　官公衙ソノ他諸機関

官衙公署ハ次ノ如シ。開魯県公署、兵営、警察署、巡警局、墾務局、郵便局、電報局、税局、商務会、蒙古土地局、師範学校、高等初等学校等アリ。

第七節　宗教

喇嘛教、回々教、耶蘇教会堂等アリ。其他西門外、西南隅ニ関爺廟、老爺廟、城皇廟アリ。

第八節　商　　業

従来商関係ノ最モ密接ナル地方ハ小庫偏、赤峰、朝陽等ナリシガ、四洮線ノ開通トナリ鄭白支線ノ開通以来此干係ハ一変シテ、白音太拉トノ干係漸次ニ密接ノ度ヲ加ヘ、近時ハ商業関係即チ諸物資ノ移出入共ニ、殆ンド白音太拉ト関係ヲ結ブニ至レルノミナラズ、従来当地トハ余リ干係ヲ有セザル奥地々方トノ物資モ、此地ヲ仲継地トシテ白音太拉ニ搬出セラル、状況トナリ、殊ニ上記白音太拉及ビ小庫偏ニ関係スル事ノ故ノ為ニ、当地ハ将来益々多望ノ地トナレリ。

当市ニ於ケル主ナル商家ヲ摘記スレバ大要左ノ如シ。焼鍋二軒、雑貨商及問屋五十余軒、小商舗百余軒。

今左ニ主ナル商舗名及商品名ヲ挙グレバ次表ノ如シ。

商号	商品	財主	資本金
宝恒永	雑貨	（合資）	4000元
同合永	焼酎	張作齢	3000元
醴泉達	〃	孫桂恒	3000元
万和永	雑貨	李子樵	2000元
万順恒	雑貨	石耀延	
徳興号	〃	武因	1000元
公玉隆	〃	温瑞臻	1000元
三義永	〃	甌唐春	800元
義太長	雑貨	張裕氏	800元
永命城	〃	李成杯	〃

今左ニ当地移出入品ノ種類及其数量ヲ概掲スルニ即チ次表ノ如シ。

(イ)移出品

種類	数量	種類	数量
高粱	50,000石	牛	20,000頭
瓜子	150,000〃	馬	3,000〃
蕎麦	1,000〃	羊	10,000〃
大豆	20,000〃	豚	2,000〃
粟	10,000〃	羊皮	10,000枚
糜子	20,000〃	牛皮	12,000〃
小麦	2,000〃	馬皮	700〃
包米	400〃	羊皮	25,000〃
大麻子	500〃	獣骨	35,000〃
芭豆	500〃	豚毛	5,000斤
吉豆	500〃	土城	200,000〃
芝麻	800〃	面城	150,000〃
小麻子	500〃	甘草	700,000〃
騾馬	2,000〃		

前記述ノ物資ハ白音太拉ヲ経テ満鉄線ニ出デ、残余ハ赤峰及小庫偏方面ニ移出サル。

(ロ)移入品

種類	数量	種類	数量
花旗市	1,000梱	庫緞	50巻
洋蠟	2,000箱	洋緞	70〃
石油	7,000〃	串緞	40〃
腿帯子	30,000組	官紗	30〃
腰帯子	6,000筋	山綢	2,000件
赤糖	800包	塩	9,000石

種類	数量	種類	数量
白糖	700 〃	氷糖	3,000 斤
坎布	700 〃	綿麻	1,300 梱
市布	2,000 疋	蓆子	20,000 枚
打連布	800 梱	線香	320 包
洋綿布	1,500 件	葉煙草	20,000 斤
中尺布	500 〃	缶詰	150 箱
大尺布	450 〃	染料	150 件
白麺	30,000 斤	靴類	230 箱
燐寸	3,000 箱	古着類	340 包
薬品	220 〃	茶葉	40,000 斤
巻煙草	4,000 〃	石鹸	350 箱
紙類	2,000 〃	陶磁器	600 梱
絡洋線	30 梱	鉄器	200,000 斤
豆油	50,000 斤	化糖品	220 箱
羽綢	1,500 疋	乾薬	20,000 斤
太西緞	〃	棉花	10,000 〃
書箱	20 梱	洋釘	4,000 〃

前記表ノ大部ハ白音太拉ヲ経由シ、一部ハ小庫偏、朝陽方面ヨリ移入セラルヽナリ。

第九節　工　　業

本地ニテ工業トシテ挙グベキハ、焼鍋業（焼酎醸造業）、粉房業（豆素麺製造業）、麺房業（製粉業）、皮舗業（毛皮鞣業）、盆窯業（土器製造）、磚窯業（煉瓦製造）等ノモノニシテ、前三者ハソノ兼営者少カラズ。何レモ小規模ノ経営ニ係ル。今左ニ各業ノモノ、現況ヲ摘録セン。

㈠　焼鍋業　本地ニ於ケル焼鍋ハ右下ノ三戸アリ。

屋号	資本額	開設年	一日ノ製造高（冬季）
醴泉達	5,000 元	民国 4 年	340 斤（原料高粮 2 石 麺子 75 石）
同和永	不明	民国 5 年	〃
万和永	不明	民国 6 年	340 斤（原料高粮 2 石 麺子 75 石）

〔備考〕

前年度ノ各業者ノ総醸造高ハ約四万斤ニ上ルベシト云ハル。

㈡　粉房業　本地ノ粉房業者ハ前記ノミ鍋業ノ他ニ、孫家、福家、王家等ノ約十戸ノモノアリテ、製品原料ノ高粮及ビ緑豆ヲ一半宛混合セルモノニシテ、其一塊（一斗二升余）ヨリ約二十斤余ノ製品ヲウベシト云ハル。コレ大ナル利益ノモノト云ハル。

㈢　麺房業　本地ノ麺房業者ハ約十余戸ニシテ、何レモ屋号ハナシ。一日ノ作業ハ一斗乃至三斗ノ原料ニテ製粉シ、二、三日隔キテ之ニ作業ヲ為ス向少カラズ。ソノ製粉ノ割合ヲ聞クニ一斗ニ付、蕎麦ハ二十七斤、小麦、巴豆及大豆ハ各三十五斤宛、又緑豆ハ四十斤ノ粉ヲ得ベシト云フ。

㈣　皮舗業　本地ノ皮舗業ハ専業者ナク、只馬具商（鞍鞍舗）ニシテ、其材料ニ供スルタメ自ラ牛馬皮ヲ製スルモノアルニ過ギズ。此等ノモノヽ屋号ヲ挙グレバ、徳聚号（資本三百元）、広昇徳（資本二百元）、義合号（資本二百元）、同心号（資本百元）ノ四ツノモノニシテ、彼等ハ一般ノ皮鞣ニモ応ジ、ソノ鞣賃ハ大牛皮一枚三元（開魯票）ノ割合ナリ。

本地ノ城外ニハ盆窯三基、磚窯七基アリ。何レモ小規模ニテ且ツ作業期モ甚ダ短カシ。製品タル土器盆一組（四個）ノ価ハ二、三角、煉瓦百個ノ価ハ七角ニシテ皆本地ノ需要ニ供セラル。

第十節　金　　融

本地ニハ未ダ金融機関ノ設置ナシ。今強ヒテ之ヲ求ムレバ彼ノ商務会ヲ数フベシ。此商務会ハ銀票ヲ発行シテ通貨ニ代エテヰル。

第十一節　諸機関

主ナル機関ハ左ノ如シ。

㈠郵便局　三等郵便局ニシテ、郵便物ハ隔日ニ白音太拉ヘ五日毎ニ赤峰ヘ発送シツヽアリ。

㈡電話局　コハ等々（ママ）局ナリ。

㈢営舎　熱河陸軍第一混成隊第一団、騎兵第一、第二営（一営ハ二百名）、団本部ハ市街ノ東端ニアリ。公営子及套営子ニ各一隊宛分駐セリ。

㈣徴収局　徴収局ハモト綏東ノ支局ナリシモ、独立シテ套須営子ニ支局アリ。

㈤菸酒公売局

㈥警察署

㈦監獄

以上

第九章　通遼（白音太拉）

第一節　位置、沿革（昭和四年六月現在）

通遼鎮ハ鄭家屯ノ管下ニ属シ、達尓罕旗地ニアリテ鄭家屯ノ西方約二百四千支里.（約三十邦里）ノ地点ニ当ル。是ハ民国二年本地方大開放ノ際、鎮地（市街地）トシテ開設セラレタルモノニシテ、原名ヲ巴林愛新鎮ト称セリ。而シテ当初ハ之ト同時ニ設定セラレシ東隣ノ小市、小巴音太来ハ商舗輻輳シ、民戸蝟集シテ繁華ノ中枢タリシニ反シ、本地ハ人家寂寞ヲ極メシガ、民国四年該小市ガ水災ニ遭ヒシヨリ以来、此地ノ商売ノ多クハ本地ニ移転セシト共ニ、彼ノ繁華モ亦此地ニ移動セシガ、後年又驚クベキ急速ノ進展ヲ遂グ。実ニ本地唯一ノ中心大市場ヲ形成スルニ至レリ。

現在四洮支線ノ終点ニ位シ、遼河ノ右岸ヲ離ルヽ事五、六支里ノ地点ニアリ。通遼ハ一九一一年ト同一六年ニ二回開放セラレタル、東蒙古第一ノ肥沃地ノ中心地トシテ設定セラレタルモノニシテ、四辺ノ開拓モ甚ダ進展シ随ッテ商業モ大イニ発展シ、一九二二年鄭通線通ジテ熱河省管内ノ北西辺、開魯、魯北、天山、村東、村西ノ商業干係ハ漸ク通遼ニ集メラレントシ、一大農産物ノ集散地タルト同時ニ、蒙古貿易ノ中枢トナリツヽアリ。一九二七年京奉鉄路、打通支線ノ開通シ、更ニ通遼、開魯間ニソノ延長ヲ見ントシテヰル。通遼ハ支那側交通ノ要衝ニアリテ、商業ハ更ニ発達スルノ見込ミナリ。

第二節　気候及衛生

第一款　気　　候

白音太拉地方ハ海洋ヲ距ル事遠ク、且ツ蒙古砂漠地帯ノ一端ニアルヲ以テ、気候ハ大陸的ニシテ寒暑ノ差甚ダシク、殊ニ夏冬ノ期間長クシテ、春秋ノ期頗ル短シ。通常五、六、七、八、九ノ五ケ月間ハ炎暑ニシテ、十一、十二、一、二、三ノ五ケ月間ハ寒冷ノ期間ニシテ、就中十二月及ビ正月、二月ハ最モ厳寒ノ季節ナリ。而シテソノ過渡期タル四月及ビ十月ノ気候ハ温和ニシテ行楽ニ適シ、之ヲ春秋トモ称スベシ。

夏季ノ最高温度ハ九十七、八度乃至百度ニシテ、冬季最低気温零下二〇度乃至二十七、八度トス。而シテ昼夜気温ノ差ハ比較的ニ甚ダシク、最高、最低ノ差ハ十五度乃至二十度、時トシテハ二十五度以上ニ達スル事サエモアリ。コレ白音太拉ノ市街ノ地質ガ砂地ニ属シ、日中ニ熱度ヲ吸収シテ気温ノ上騰スルモ、夜間ニ至レバ放熱ノ度早クシテ俄カニ低温トルヲ以テナリ。

風力及風向　　当地方ハ一般ニ平地ニシテ、山岳丘陵ノ起伏スルモノナク、又森林等ノ繁茂スルモノナキヲ以テ風ハ多ク、就中初春ハ風力最モ猛烈ニシテ、黄塵万丈、天地晦冥全クニ呎ヲ弁ゼザルノ日稀レトセズ。風向ハ五月ヨリ九、十月ニ至ル夏期ハ東南ノ風多ク、冬期ハ北又ハ東北風絶エズ、寒気ハ凜烈ナリ。

雨、雪　　一般ニ風雪ノ量甚ダ少ク、毎年旱害ニ苦シムヲ以テ例トス。雨季ハ七、八月ニシテ所謂梅雨期ナルモ、五月ハ雨的ナラズシテ驟雨ノ降リ至ルヲ常トス。一ケ年ノ降雨量ノ大部分ハ此短期間ニ降リ、河水ハ氾濫シ交通ノ杜絶スルガ如キ事珍ラシカラズト雖モ、減水ハ速カニシテ直チニ乾燥スルヲ常トス。此点大イニ他地方面ト異ル所アリテ、農業企業者等ノ注意ヲ要スルノ点ナリトス。

降雪ハ十月ヨリ翌春三月ニ至ルノ半ケ年間ニ於テ多キモ十回ヲ越ユル事ナク、而モ僅カニ地表ヲ潤ホスニ止リ、積雪ノ数寸ニ達スルガ如キハ極メテ稀ニシテ、故老ノ言ニヨルモ気温ハ年々変化シ雨量ノ如キモ減少ノ一方ナリト云フ。コレ蓋シ該地方ノ人口増加シ、荒地ノ門墾セラルヽガ故ニ因ルナランカ。

水及水量　　当地方ノ井水並ビニ河水ハ何レモ淡褐色又ハ淡緑色に溷濁(コンダク)シ、且ツ硬水ニシテ之を玩味(ガンミ)スレバ塩分ヲ含ム事多シ。之ヲ医学的ニ分析シタルノ結果ニヨレバ、殆ンド飲料ニハ適セズト云ハル。地下水ハ頗ル豊富ニシテ、地下七、八尺ニ開鑿スレバ水層ニ達シ、且ツソノ湧出モ多量ニシテ、冬季ト雖モ減水ノ程度頗ル少シ。是ヲ以テ

本邦人等ノ経営スル水田等ノ旱魃ニ当リ、風力若クハ簡単ナル機械ヲ応用シテ地下水ヲ吸揚シテ、ソノ灌漑水ノ欠乏ヲ補フニ於テハ、其利益モ亦鮮少ナカラザルベシトス。

第二款　衛　　生

白音太拉ハ概シテ健康地ト称スルヲウベキモ、冬期ニハ乾燥シ春期ニハ強風アリテ砂塵ヲ飛揚セシムル事屢々ナルヲ以テ、男女共ニ呼吸器病、眼病ヲ患フルモノ多数ナリ。流行病モ亦赤痢、窒扶斯等年々多少ノ流行アリト雖モ、医療器ノ不備、不完全ナルノ割合ニソノ猖獗ヲ見ザルハ、支那人一般ガ概シテ生食、生水ヲ飲吸セザルニ起因スルモノナルベシ。又蒙古人無智愚昧ニシテ、殆ンド衛生思想ノ何タルカヲ解セザルヲ以テ上下ヲ通ジテ宿痾多ク、就中花柳病最モ多シト云フ。

白音太拉ニハ支那人漢方医ノ開業セルモノ数人アリト雖モ、正式ニ医学ヲ修業セシモノナク、之ヲ他ノ都市ニ於ケル支那人医師ニ比較スルモ劣ル事数等ナリ。此ニ本邦医師ノ太田勤氏アリ。既ニ数十年間此地ニ居留シテ気候風土ヲ熟知シ、ソノ進歩シタル技術トヤヽ完備セル医療器具ヲ備ヘテ、治癒ニ従事セルヲ以テソノ名声モ亦嘖々タルモノアリ。従ッテ蒙古人等ニシテ遠ク蒙古部落ヨリ尋ネ来リテ、治療ヲ求ムルモノ年々ニ増加スト雖モ、多クハ数年間不治ノ痼疾又ハ支那医ノタメニ散々ニ取扱ハレ、遂ニ匙ヲ投ジタルモノ多キヲ以テ、其治療ニハ少カラザル苦心ヲ要スル事アルモ、而カモ其外科的ノ治療ハ大抵ハ好結果ナリト云フ。

通遼県警察署内ニ阿片吸飲者ノ戒烟所並ビニ施療所アリ。併シコハ有名無実ナリ。又清道局ヲ設ケテ街路ノ掃除、下水溝ノ修築等ヲ司ラシメツヽアルモ、汚穢物ハ各所ニ山積シテ悪臭ハ鼻ヲ付キ、特ニ夏期ハ牛馬ノ入市ノ多キノ期節ニハ無数ノ蒼蠅ハ飛散シテ、飲食物ノ取締方法等全ク欠如セルノ点ニ鑑ミ、衛生上ノ危険甚ダ大ニシテ、現在ノ処衛生ニハ全ク公私ノ施設ナシト云フモ、敢エテ過言ニ非ルベシ。

第三節　人口及戸数

近来ハ開墾事業ハ大イニ進捗シ、移住農民ノ増加ニ伴ヒ、市街ノ繁栄ヲ加ヘ市民モ亦増加シ、ソノ種類ハ僅少ノ蒙古人ヲ除キテハ余ハ殆ンド悉ク漢民族ナリ。

戸口	日本人	朝鮮人	中国人	外国人	合計
戸数	8	6	3,453	2	3,469
人口	21	24	39,320	8	39,373

（昭和四年六月末調）

格別	日本人	朝鮮人	中国人	外国人	合計
人口	24名	230名		3名	217名

（昭和五年六月末現）

〔備考〕

上表中ニハ大倉農場ニ使用セラルヽモノヲモ含ム。外国人ハ宣教師一名、ワリー洋行ト是レナリ。

第四節　交　　通

現ニ四洮鉄道ノ支線タル鄭白線ノ終点タリ。本地ト各地間トノ距離ハ左ノ如シ。鄭家屯二四〇支里（鉄道）、余粮堡六五支里、開魯県一八〇支里（商業通路）、莫里庙六五支里、達尓罕王府一〇〇支里、旱里克図王府一二〇支里。

白音太拉ヨリ開魯ニ至ル一八〇支里ノ間ハ達尓罕旗ニ属シ、地勢ハ只渺茫坦々タル一望無涯ノ大平野ニシテ、耕作物ノ繁茂期ノ外ハ展望ハ自在ナリ。又到ル処車馬ノ通行ハ容易ニシテ、交通モヤヽ頻繁ナリ。路幅ハ三、四米ヨリ四、五十米ニ変化ス。北一支里ノ地点ニ老哈河ノ渡船場ヲ有ス。

通信機関トシテハ、郵便局、電報局、電話局等ノモノアリ。

第五節　市街ノ概観

市街（大街基即チ新市街地）八十二方里（我約三十三町歩ニ当ル）ニシテ、周囲ニハ土壁ヲ繞ラシ、東西南北ニ各通行門アリ。市街ハ依然タル所謂碁目式ニシテ、大街道ノ如キハ両側ニ排水溝ノ設備アリ、比較的ニ清潔ナリ。東西ヲ貫ク所ノ中街最モ繁華ナル商区ナリ。

第六節　官公衙及諸機関

(一)　日本側　　満鉄鄭家屯公所派出所（大正十一年六月設立）、博愛医院（満鉄補助）、通遼医院、

日本人会、東亜勧業公司農場（農場ハ市街ノ東南四〇支里哈拉火烧ニアリ）、革新公司農場（農場ハ市街ノ西約一二〇支里ニアリ）。

㈡ **支那側**　通遼県公署、警察署、教育会、商務会、農務会、騎兵旅団部、通遼駅、税捐局、電報局、電話局、郵便局、小学校。

第七節　貨物集散概況

当地ノ商業ハ白音太拉ヲ中心トシテ、東西二百支里、南北百支里ヲ其勢力圏内トシ、此間ニ散存スル蒙古人及開放地内ニ居住スル満蒙人ヲ華客トス。元来白音太拉ハ創設日尚浅ク、此間ニ非常ナル旱魃並ビニ市街ヲ全滅セシメタルガ如キ水災ニ罹リ、ソノ発展ヲ阻害セラレタル事少カラズト雖モ、ソノ開放地ノ拡大ニ伴フ農事ノ発達、人口ノ増加ニヨリ商業ハ日ニ日ニ増進シ、今ヤ東蒙ニ於ケル一大貨物ノ集散地且ツ消費地タルニ至レリ。

如此新開市場ニ於ケル取引状態ノヤヽ他トソノ趣キヲ異ニスルノ点アリテ、店頭小売ハ現金売買ヲ主トスルモ、各蒙古王府並ビニ信用資産アル喇嘛廟ノ如キニ対シテハ凡ベテ掛売行ハレ、ソノ代償トシテ牛、馬、羊等ノ畜類又ハ羊毛、獣皮、獣骨、ソノ他甘草、曹達等ノ如キ原産品ヲ以テ決済スルモノ多シ。又春秋ノ雨季ニアリテハ、店員ヲ預メ取引キ係アル得意先ニ派出シテ、麦粉、石油、綿糸、酒類、茶、煙草等ヲ行商セシメ、物々交換若クハ末期ノ農産品、若クハ畜類、毛皮等ヲ見込買ヲナスヲ例トス。而ルニ此等新市場ニ於ケル商業ノ実権ハ、開放当時同地方ニ先駆シタル鄭家屯ノ商人之ヲ掌握シ、従ッテソノ取引ノ大部分ハ鄭家屯ヲ土台トスルヲ以テ鄭家屯ノ延長ナリト云フモ、敢エテ過言ニ非ルナリ。

当地ニ於ケル出廻リ貨物ハ農産物ヲ以テソノ大宗トシ、家畜類、獣毛皮、骨、甘草等之ニ次グ。他地ヨリノ到着貨物ハ石炭、石油、木材、麻袋、綿糸布、メリケン粉、塩ソノ他諸雑貨諸製造品ヲ主トスルモノトス。

第八節　工　　業

工業ト称スベキハ油房、麻油房、焼鍋及ビ磨坊等ノモノニシテ、其概要ハ次ノ如シ。

油房ニハ五戸アリテ一班乃至二班装置ヲ有シ、一班一日ノ製造高ハ原料大豆三石一斗ヨリ豆粕二十三斤物六十枚及ビ豆油三十五斤ニシテ、一ケ年ノ製造高ハ豆粕十五万枚、豆油三十四万斤ナリ。

麻油房ハ麻実ヲ以テ油ヲ製スルモノニシテ七戸アリ。作業期間ハ冬期四、五ケ月ニシテ、一ケ年ノ製造高ハ油約九万斤、粕五万枚内外ナリ。

焼鍋ハ高粱ヲ以テ焼酎ヲ製造ス。高粱四石ヲ以テ五百斤ノ酒ヲ作ルヲ一日一斑ノ作業トス。当地ニ三戸アリテ最近一ケ年ノ製造高ハ七十二斤ナリト云フ。

磨坊十一戸、粉房ハ二十一戸アリテ、前者ハ一ケ年原料小麦二千四百余石ヨリ四十二万八千斤ノ麦粉ヲ製出シ、後者ハ麦麺二十四万斤ヲ製造ス。此等ハ凡ベテ一ケ年ノ内ニテ、冬季、夏季等ヲ以テ主トスルナリ。

第九節　農　　業

白音太拉附近ハ前述ノ如ク肥沃ナル大平野ニシテ、遼河境内ヲ貫流シ、而カモ風雨多クハ順当ナルヲ以テ、農業ヲ経営スルニハ頗ル適当ナリ。土産物トシテハ、高粱、大豆、粟、大小蔴子等ヲソノ主ナルモノトシ、又甘草等ノ如キモ天産物ノ大宗タリ。

要之スルニ当地方ハ地勢平坦ニシテ地味ノ肥沃ナルヲ以テ、将来満漢移民ノ増加ニ伴ヒテ次第ニソノ耕地ヲ開発シ、遠カラズシテ東蒙ニ於ケル一大農作地タルニ至ルベシ。現ニ大倉組ノ華興公司ハ市街ノ西北約一二〇支里ニ於テ、朝鮮人ヲ使用シテ米田ヲ経営シツヽアリ。

第十節　商工概覧

第一款　通　　貨

此地ノ通貨ハソノ細目ハ鄭家屯ノソレニ準ズ。今ソノ種類ヲ挙グレバ、

A、硬貨、㈠現大洋、㈡銅元

B、紙幣　㈠奉天票　中国、交通、東三省官銀号、奉天公済平市

　　銭号　㈡大洋票　㈠天津、中国、交通、辺業

銀行発行ノモノ。(ロ)遼寧四行号、聯合発行準備庫発行ノ新大洋票モ亦六月末ヨリ市場ニ現ル。

(ニ)金票ハソノ流通性少シ。

第二款　金融機関

名称	資本(大洋元)	所在地	貸出高
東三省官銀号		西大街	980,000元（奉票）
世合公分銀号	120,000元	〃	155,000〃（大洋）
宝隆峻哈尔浜支店		隆興長内	83,000〃（〃）
功成玉長春支店		滙昌信内	30,000〃（〃）
泰来豊長記	10,000元	中大街	18,000〃（〃）
裕昌元銭荘	6,000元	北街	
人和福		東玉合内	
和盛長			

第三款　倉　　庫

此地ニハ未ダ倉庫ノ設立ヲ見ズ。

第四款　保険業

今其保険業者ノ内容ハ左ノ如シ。

会社名	代理店名	一ケ年契約高（大洋）
羊城洋行	東泰隆	155,000元
広恒〃	永昌同	85,000〃
三井〃	淮昌信	288,000〃
太古〃	東泰隆	160,000〃
徳利〃	東興号	180,000〃

第五款　日支合弁事業

此地ニハ未ダ合弁事業ノ行ハルヽヲ見ズ。

第六款　商工業機関

商工業ノ機関トシテハ先ヅ商務会ヲ挙グルヲウベシ。今ソノ組織ノ内容ヲ示セバ、会員数三十六名、主席　載国璋（天成福）所在地　西北街。

第七款　同業組合

同業組合トシテハ左ノ三ツアリ。

名称	所在地	会長	設立年
通遼医生会	商務会胡国	何玉書	
大薬房			民国8年
理髪組合		富貴堂	民国9年

第八款　商工業者名

（イ）日本人

営業種目	商号	経営者	所在地
運送業	国際運輸通運営業所	松山翠	南街
特産甘草	日光洋行	境口彦二	北大街

（ロ）中国人

営業日	商号	資本(大洋元)	経営者	所在地	従業員
焼鍋	宝福泉	30,000	曹玉書	西街	24人
〃	天慶東	35,000	唐立山	小街基	23〃
〃	准気湧	20,000	劉鴻臣	北街	18〃
〃	慶裕久	30,000	蕭慶爺	西街	19〃
油房	徳発長	100,000	厳祥生	南門外	42〃
〃	徳発源	30,000	程聖符	西街	18〃
〃	天成福	20,000	載国章	北街	12〃
〃	茂盛興	30,000	李春喧	永福街	14〃
〃	隆興当	50,000	孟春普	北街	18〃
〃	天慶福	20,000	郭維城	西大街	13〃
〃	公興福	50,000	張星五		17〃
〃	徳盛長	15,000	刘春生	小街基	16〃
皮革店	同聚成	3,000	田雨廷	東街	
〃	永合盛	4,000	揚風閣	中街	
〃	永徳魁	5,000	玉国安	西街	
〃	福厚成	4,000	張捷三	老商務会街	
〃	三合永	6,000	石柱三	北楼街	
〃	春盛興	5,000	刘際五	西街	
〃	祥記	4,000	刘昇源	永福大街	
〃	宏記	3,000	馬永場	〃	
〃	合記	6,000	呉成	〃	
〃	厚発和	6,000	張久和	西大街	
〃	准盛長	6,000	李守業	〃	
〃	福和盛	6,000	伍尊一	〃	
〃	復厚興	5,000	周恵民	〃	
糧桟	公発源	40,000	福白臣	南大街	
〃	徳発源	30,000	程聖符	〃	
〃	准泉長	50,000	李助坡	〃	
〃	公興当	50,000	郭外遼	〃	
〃	福元合	20,000	徐信候	南大洋	
〃	同源久	60,000	張秀郷	〃	
〃	徳発長	60,000	関祥生	〃	
〃	豊聚長	70,000	年孤長	〃	
〃	准昌信	20,000	姚子源	〃	
〃	東興達	15,000	刘恩坡	南西街	
〃	徳発厚	15,000	徐列林	〃	
〃	凋徳成	20,000	孟志達	南大街	
〃	永昌堂	15,000	蔡紀五	〃	
〃	儲材糧桟	10,000	馬慶五	〃	
〃	福弁達	10,000	売明遠	北大街	
牛馬店	積順東	20,000	趙漢臣	西街	
〃	三番長	10,000	張雨亭	〃	
〃	三升永	12,000	張樹勲	〃	
〃	薪金福	50,000	苗春圃	西横街	
〃	三泰祥	15,000	陳維清	西街	
〃	東興店	15,000	王成業	南街	
〃	福盛魁	30,000	王相清	東街	
〃	広裕福	20,000	雷明春	北街	
〃	福長清	10,000	姜雲閣	〃	
運送店	公興厚	6,000	王済丹	中街	
〃	益和桟	6,000	王魁五	〃	
〃	東興達	8,000	李相臣	南大街	
〃	同慶久	4,000	雀有崑	中街	

営業日	商号	資本（大洋元）	経営者	所在地	従業員
〃	億通桟	3,500	伝兆思	西街	
〃	三合桟	5,000	干鏡波	〃	
〃	東順興	5,000	王作舟	中大街	
〃	玉徳桟	5,000	王品階	東街	
〃	金順桟	1,500	王品三	西大街	
雑貨	吉順利	100,000	王顕廷	南大街	
〃	吉順盛	80,000	張精一	〃	
〃	大徳亨	50,000	龐緒文	〃	
〃	徳順興	40,000	刻蔭栄	〃	
〃	天合盛	30,000	喬津堂	〃	
〃	天興福	40,000	干雲亭	〃	
〃	永盛大	30,000	張幼臣	北大街	
〃	成発祥	40,000	張遊先	南大街	
〃	東玉合	30,000	張希橋	北街	
〃	同平盛	15,000	趙聯賢	北街	
〃	大成祥	25,000	李継勛	南大街	
〃	善有順	30,000	玉風洲	〃	

第九款　一般工業

種類	戸数	資本（元）	生産額（元）
焼鍋	5	150,000	127,660
油房	16	392,000	879,840
磨房	25	72,000	17,600
粉房	17	42,600	39,500
縄麻舗	16	38,000	34,625
醤園	8	9,000	47,200
麻子油房	6	5,900	—
皮被廠	18	64,000	331,900
皮靴廠	2	5,000	13,420
鞋靴舗	—	—	—
鞭杵舗	36	59,200	239,300
毡子房	7	17,400	34,480
皮箱舗	4	9,400	10,110
車舗	37	127,700	404,000
水舗	12	37,000	332,000
匣子舗	3	3,500	15,460
柳缶舗	6	7,700	23,000
搪鑪	4	5,700	93,000
鐔鐃	5	14,000	22,420
鉄匠	16	18,400	69,190
洋鉄舗	13	3,500	17,050
桟房	6	6,700	52,900
口袋舗	2	2,500	4,380
蓆子房	3	3,000	11,710
炸炮舗	3	8,500	20,760
紙房	4	7,300	12,550
簸舗	3	2,700	171,150
蒲包	—	—	—
鞋舗	16	26,600	201,480
慍舗	6	12,000	38,510
香会	1	8,000	5,550
碾磨攸房	5	4,500	20,060
合計	305	1,163,800	3,136,805

（昭和三年度通遼工業者一覧表）

〔備考〕

資本ハ土地家屋等ノ固定資本ヲ含マズ。戸数モ大ナルモノヽミヲ掲ゲタリ。

第十章　遼源（鄭家屯）

第一節　位置、地勢

鄭家屯ハ奉天省ノ西北端ナル遼源県ノ県署ノ所在地ニシテ、西遼河ノ右岸、北緯四十三度三十一分、東経百三十二度三十一分ノ地点ニアリテ、満鉄本線四平街駅ヲ西北ニ距ル事五十四哩六、四洮鉄道本線ノ鄭白支線トノ交叉点ニ当レリ。附近ノ一帯ハ茫漠タル平原ニシテ、只東方ニ勃克円山アリ。

今茲ニ鄭家屯地図凡例トシテ、是レガ印象ニ対シテノ説示ヲ与フベシ。〈第５図〉

第二節　沿　　革

清朝ハ万里長城ト之ニ連続セル辺境トノ外城（国外及辺外）ニ蒙古ノ部衆ヲ遊牧セシメテ、境域ニ漢民ノ潜入移住スル事ヲ禁ゼリ。

蒙古ノ部衆ハ万州旗ノ単制ニ倣ヒ、各部落毎ニ一個又ハ数個ノ自治団体ヲ作リ、一定ノ境区間ニ遊牧セシメ、此自治団体ヲ旗ト云ヒ此首長ヲ旗長ト云ヒ、其遊牧地方ヲ旗地ト云フ。

漢民ハ清朝ノ封禁ヲ直チニ犯シ、関内（直隷省）、関外（遼西一帯）接壌線ヨリ旗地ヲ侵殖シテ、旗長、旗民ハ寧ロ之ヲ利益トシテ之ヲ歓迎シ、遂ニ止ム所ヲ知ラズ。封禁ノ発令者ハソノ犯令者ニ引摺ラレテ潜入シ、群衆ノタメニハ其行政機関ヲ放置スルニ至ッタ。抑モ旗長ハ国土ヲ管理シ、之ニ旗民ヲ遊牧セシムルノミニシテ之ニ所有権ヲ設定シ、之ヲ他人ニ譲渡スル事ノ権能ハ無イノデアル。

然ルニ漢民ノ移住ハ漸ク夥ダシク、是等ノ行政機関ハ設ケラルヽニ至ッテ、漢民ノ占有土地ニ何等ノ権利確保ノ手続ヲ取ラザルベカラザルニ至ッタ。ソコデ蒙古旗ハ之ニ永代小作権ヲ表示セル地券ヲ発行シ、支那地方行政機関ハ之ニ加印シテ権利ヲ保証スル様ニナッタ。於此漢民ノ進出セル所ノ地方ノ地券ハ、奉天省ノミニ於テモ昌図、法庫（一部）、康平、梨樹、懐徳、遼源ノ七県デアル。

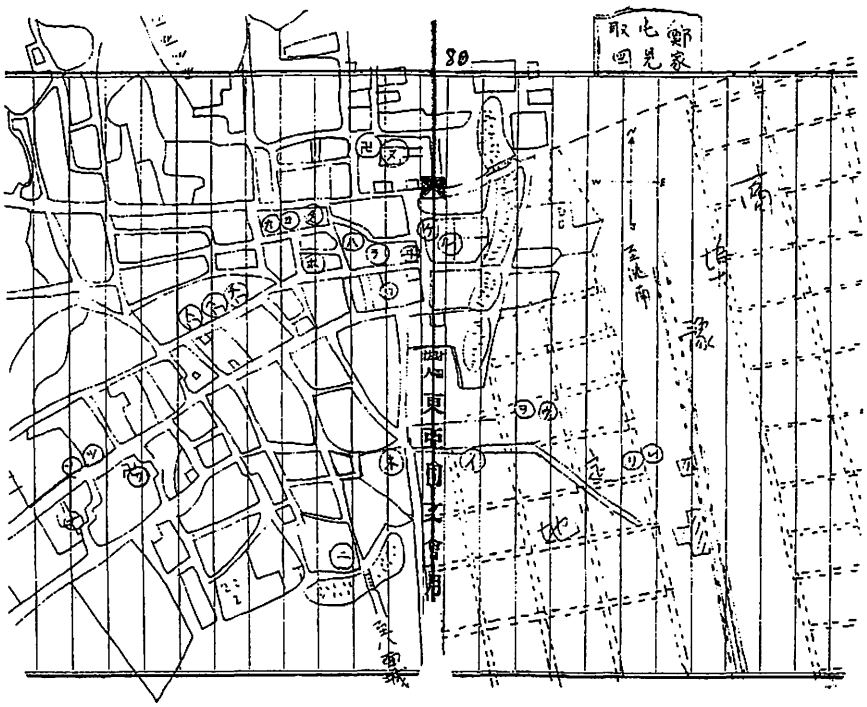
是等ヲ仮リニ旧開放地帯ト呼ビ、別ニ彰民県ガアッテソノ開放事情ハ殆ンド同ジデ、蒙古旗ニ非ズシテ清朝三陵付属ノ養息木牧場アリ、ソノ牧丁ガ旗ニ属セザル牧場所属人ナノデアル。一九〇〇年前後、ロシヤハソノ欝積セル所ノ強大勢力ヲ爆発シテ満州ニ南下セルニ対シ、清朝ハ俄カニ辺境ノ充実ノ策ヲ樹テ蒙古旗地ノ封禁ヲ解キ、漢民ノ移住ヲ企図スルニ至レリ。恰カモ蒙古旗長ハ浪費ニ馴レ、目下ノ急ニ追ハレテ夫レヨリ得ル現金ヲ甚ダ必要トセルノ時期デアリキ。

奉天省ニ於テハ一九〇六年、先ヅ洮南、鎮東、安慶、興泉、開通ノ六県開放セラレ、続イテ双山、通遼、胆榆ノ諸県現レ引続キテ開放セラレタリ。今日ニ於テハ興安屯墾ノ如キ、已ニ軍事制開放ノ時代ニ至レリ。

開放ハ開荒又ハ出荒ト称スルモ、之ヲ約言スレバ蒙古旗長ハ国家ニ対シテ其土地管理権ヲ返還スルモノデアル。政府ハ一機関ヲ設ケ開放事務ヲ取扱ハシメ、開放地ニ所有権ヲ新ニ設定シテ、之ヲ一般国民（漢蒙諸氏）ニ払下ゲルノデアル。此払下地代ノ大部分又ハ一部分ガ、蒙古管理権返還ノ代償金トナルノデアル。ソノ開放後ニ於テモ、尚蒙古ハソノ地租ノ全部又ハ一部ヲ徴収スル事トナッテヰルガ、ソレハ管理権返還ノ代償金一部ト解釈スル事ガ出来ル。蒙古ニ帰スベキ代償金ハ年ヲ通ジテ蒙古ニ不利トナッテヰル。是等ノ開放地帯ヲ後ニ新開故地ト称セリ。旧開放地帯ニハ永代小作権ガアリテ、所有権ハ無カリシナリ。新開故地帯ニハ、初メヨリ所有権ガ設立セラレテヰル。倶ニ開放地域ハ支那行政区域ナリ。

旧開放地帯ノ永代小作権ハ奉天省ヲ始メ、各省皆之ヲ所有権ノ地券ニ取替ヘル事トナッテヰル。実質ニハ何等ノ変化ハナイガ、之ヲ取替ヘル事ニ於テ政府ハ収入ノ口実ヲ得ル故デアル。

鄭家屯ハ旧開放地ノ最先端ニアルノ都邑ニシテ、同治ノ初年間（一八六〇年——同一八七〇年）頃ニハ已ニ商売ガ集レルモノラシイ。然シ当時ノ商勢圏ハ単ニ移住農民ト之ニ隣接セル極小範囲ノ蒙古人ノミト思ハル。然ルニ将来営口ヨリ通江口ニ至ル間舟揖ノ便アル所ノ遼河ハ、蒙古地帯ナル



イ　領事館
ロ　満鉄
ハ　民会
ニ　浄土宗
ホ　正隆
ヘ　道尹公署
ト　十四師司令部
チ　旅部
リ　娘々廟
ヌ　署公館
ル　老爺廟
ヲ　文廟
ワ　隆城廟
カ　検審所
ヨ　県公署
タ　警察署
レ　発電所
ソ　第一区
ツ　第六小学
ネ　第一小学
ナ　監獄
ラ　鄭家屯ホテル
ム　商務会
ウ　教育公署
ヰ　税捐局

第５図　鄭化屯の見取図

故ニ、蒙古旗（科泉洮旗左翼中旗）ハ一九〇九年ニ遼源（鄭家屯）マデ遡江ヲ許スニ至レリ。営口、遼源間一千五百二十八支里（二九二邦里）ノ水路開ケテ、遼源ハ俄カニ蒙古貿易、奥地農産物集散ノ重要地ナリ。一九一七年四鄭線ノ開通スルニ至リテ、跳躍的ニ殷盛ヲ極メタリ。然ルニ四洮線鄭家屯線ハ伸ビ、奥地ノ開放地域ニ於ケル物資ノ集散中心地ハ漸ク通遼、洮南ニ分レ、同時ニ打続ク動乱ニ甚ダ衰微セリ。蒙古貿易ハ通遼ト洮南トニ吸収セラレ、遼源ヨリソノ影ヲ潜メ、遼源現在ノ商務ハ旺ンナリト云フ事ハ出来ヌノデアル。

第三節　気候及衛生

第一款　気　　候

地方ハ東部内蒙古ニ位シ、遠ク海洋ヲ離レ且ツ西北ニ偏在セルヲ以テ、気候ハ大陸的ニシテ寒暑共ニ劇シ。一年ヲ通ジテ之ヲ概説セバ、主寒従暑ト称シテ可ナリ。例年九月下旬ニ初霜アリテ、十月ヨリ翌年四月ニ至リ約半ケ年間ハ寒気峻烈ニシテ、最低気温摂氏零下二十度乃至三十度ニ達シ、清明節ヲ過ギテ気温ハ次第ニ上騰シテ解氷時期トナリ、六、七月ハ炎暑最モ甚シト雖モ、此高温気ハ夏至節ヨリ白露節ニ至ル約二ケ月余ニ過ギズ。白露節以降ハ気温ハ次第ニ降下シ、昼夜寒暖ノ差益々大ニシテ、或ハ九月中旬乃至十一月ニ烈シキ降霜ヲ見ル事アリ。

自大正七年至昭和三年十ケ年間平均気温表

気別／月別	平均気温	最高気温	最低気温
1月	− 5.5	− 8.7	− 3.9
2月	− 11.3	− 4.0	− 18.3
3月	− 2.6	3.1	− 8.9
4月	7.4	14.4	0.9
5月	14.4	21.8	7.6
6月	20.6	27.5	14.3
7月	24.1	29.4	19.3
8月	22.6	27.9	17.8
9月	15.6	27.9	17.8
10月	7.1	13.8	1.2
11月	− 3.5	1.9	− 9.2
12月	− 3.9	− 6.5	− 18.9

平均温度五・五度、最高気温一一・九度、最低気温－〇・五度、最高極　大正九年七月一日三九・八度、最低極　大正十一年一月十六日－三二・五度

第二款　衛　　生

㈠　**概論**　　当地ハ東蒙古ノ偏部ニシテ、統治以来未ダ年ヲ歴ル事久シカラザルヲ以テ、諸般ノ設備モ亦不備ヲ免レズ。殊ニ従来支那ニ欠如セル衛生的設備ノ如キハ、何等見ルベキモノナク、尤モ共同便所ノ修築塵挨箱ノ設備ハ、他衛生思想ノ鼓吹、種痘、戒煙等ノ施設モ絶無ニハ非レドモ、徒ラニ表面ヲ糊塗シタル一時的ノ形式ノミニシテ、加フルニ智識階級ニシテ衛生ノ何タルカヲ解セザル。一般住民ノ因襲ノ久シキ殆ンド脳裡ニアリテ、穢臭ヲ知ラザルモノニ似タリ。冬季ノ結氷中ハ万物氷結シテ、自然的ニ汚物悪臭ノ流溢飛散ヲ防ギ、最モ健康時期ナリト雖モ、大気ノ極寒ナル。往々ニ呼吸器ヲ害スル虞アリ。清明節後地表ハ先ヅ解氷シ、次イデ地下ニ及ボスニ及ビ、積日ノ汚穢一時ニ腐敗シテ悪臭ヲ撲チ、加フルニ疾風ハ砂塵ヲ飛揚シテ、真ニ不快ニ堪エザラシム。即チ腸窒扶斯（チフス）、呼吸気病等ノ患者ハ次第ニ発生シ、次イデ夏季ノ降雨期ニ入レバ霍乱（かくらん）、赤痢ソノ他ノ流行病タルトヲ問ハズ仲々多シト雖モ、如此不潔ニ非衛生的ニシテ、且ツコレガ予防機関等ノ欠如セルニ反シ、其甚ダシキ大流行ヲ見ザルハ頗ル意外トスル処ナルモ、コレ畢竟支那人ガ数千年ノ経験ニヨリ会得シタル摂生法ニ遵ヒ、大気湿潤スレバ室内ノ炕ヲ焚キテ侵潤ヲ防ギ、生水、生物ヲ忌食シ胃腸ヲ保護スル等自然ノ衛生法ヲ格守スルノミ。

但シ大正八年夏季満州ノ各地ニ流行シタル虎列刺（コレラ）病ノ如キハ、鄭家屯、白音太拉ノ如キ都会地ニ殊ニソノ凶暴ヲ逞クシタルガ、コレ衛生機関ノ欠乏ト各個注意ノ至ラザルノ処ト雖モ、亦一面ニ於テハ牛、馬、ソノ他ノ畜類ノ出入リ多ク、之ガタメニ発生シタル多クノ蒼蠅ノ群集ガ、四方ニソノ病毒ヲ伝播セシムルモノアリテ、殆ンドソノ防疫ノ如キ一ツニ言ヒ易クシテ、行ヒ難キノ致ス現像

ナリト云フベシ。

(二) **飲料水**　当地方即チ東蒙古一帯ノ地ハ到ル処曹達(ソウダ)ノ産出地ナルヲ以テ、自然水中ニ塩分ヲ含有シ良質ノ井水ヲウル事甚ダ困難ナリ。鄭家屯ニ於テモ亦同一ノ傾向アリテ、飲料ニハ適セズトセラル。尤モ遼河ノ流水ハ比較的ニ良好ナルモ、市街ヲ離ルヽヤヽ遠キト、之ヲ運搬清澄シタルノ上ニ非レバ、使用シ難キ不便アルヲ以テ、内外ノ住民ハ何レモ一旦井水ヲ煮沸シテ飲料又ハ其他ノ用ニ供セリ。

第四節　戸数及人口

戸口＼国籍	日本人	朝鮮人	中国人	外国人	合計
戸数	42	3	7,616	1	7,662
人口	153	13	51,770	3	51,939

〔備考〕

日本人ハ鄭家屯領事館（昭和四年六月調）

中国人ハ鄭家屯満鉄公所（〃三月末調）

第五節　交　通

鄭家屯ハ四洮鉄路本線ト鄭白支線トノ交叉点ニ当リ、又現今遼河ノ遡航ノ終点トシテ交通上非常ナル枢要地点ニ存在ス。

鄭家屯駅ヨリ各駅ニ至ル賃金及ビ里程ヲ示セバ即チ下表ノ如シ。

右賃金ハ必ズシモ現大洋ノミニ非ズシテ、金票又ハ奉票ヲ以テ其都度相場ニ按ジテ之ヲ換算シテ買求ムル事ヲ妨ケズ。

四洮鉄路ノ軌幅ハ全然ニ満鉄ト同一ニシテ、営業用輪転材料ハ多ク満鉄ヨリ借用セリ。

駅名＼等級及里程	一等	二等	三等	里程
四平街	4.40元	2.65元	1.80元	54哩
洮南	11.25元	6.75元	4.50元	140哩
通遼	5.70元	3.42元	2.30元	72哩

（現大洋建）

以上ノ他ニ鄭家屯ヲ中心トスル主要陸路ヲ挙グレバ、(一)双小鎮、懐徳ヲ経テ長春ニ至ルモノ（一九五支里）、(二)新集廠ヨリ長嶺伏隆県ヲ経テ新城ニ達スルモノ（五七〇支里）、(三)博王府ヲ経テ小庫偏ニ至ルモノ（六五〇支里）、(四)康平県ヲ経テ法庫門ニ至ルモノ（二四〇支里）。

遼河ノ舟航　遼河ノ舟航ハ営口、通江口（鉄嶺ノ北）間ニ限ラレシモノニシテ、通江口ヨリ上流ハ蒙古（博王）ヨリ其ノ遡航ヲ禁ジラレシガ、光緒三十二年（一九〇六年）、博王ガソノ領土内ノ最上流三江口迄ノ航路ヲ開クニ及ビ、三江口ニハ俄カニ人集リ、市街ヲ形式スルニ至レリ。然ルニ宣統二年（一九一〇年）、達尓罕王ソノ領内鄭家屯迄舟航ヲ許セシカバ、鄭家屯ハ是ヨリ益々発達セシモ、三江口ハ遂ニソノ発展ヲ阻止セラレタリ。

遼河ノ舟航ハ鄭家屯、営口間ニ於テ上航十四、五日、下航七、八日ヲ要ス。ソノ舟航里程ヲ挙グレバ次ノ如シ。鄭家屯⟷三江口八〇支里、三江口⟷通江口三七〇支里、通江口⟷営口九八七支里、計一、四三五支里。

市内ノ交通　市内ニハ轎車、人力車、大車ノ三種アリ。大車ハ貨物運送ニ用ユ。冬季毎一蔵袋小洋三分、夏季六分。

通信機関　当地に於ケル通信機関トシテハ、郵便局及電話局アリ。又白音太拉並ビニ四平街間ニハ電話ノ施設アリテ、公衆ノ使用ニ充ツ。

第六節　官公署及諸機関

(一) **日本側**

領事館　大正十五年十月、奉天総領事館分館トシテ開設セラレ、翌年領事館ニ昇格。現在ノ建物ハ大正八年末ニ竣工セシモノナリ。

民留民会　大正七年十一月一日領事館会ニヨリ設立セラレタルモノナリ。

満鉄公所　大正三年十月総務部交渉局出張所ヲ開設、七年一月之ヲ廃止シテ公所ヲ設置セリ。現在庶務部ニ属シ、主トシテ支那側トノ応酬聯絡、情報ノ蒐集及東蒙地方ニ於ケル諸般ノ調査等ニ従事セリ。白音太拉ニ派出所アリ。

日本小学校　大正七年四月開校。満鉄ノ経営ナルガ、居留民ニヨリ之ニ対シテ一定ノ教育委托金ヲ納メテ、児童ノ教育ヲ委托セリ。十五年二月ノ現在ニ於テ教員三名、生徒十八名アリ。尚ホ十

四年ヨリ校内ニ民会ニテ幼稚園ヲ附設アリ。

実業補習学校　日本小学校内ニ在リ、大正七年九月初メテ支那語、蒙古語ノ両科ヲ開設シ、九年六月ニ日語科ヲ添設セリ。十五年二月ノ現在ニ於テ、講師四名、生徒支那語科十九名、日語科三十名アリ。蒙古語ハ休講中。

満鉄試作農場　大正六年四月ノ設立ニ係リ、現在興業部、農務科ニ属セリ。内蒙古ニ於ケル一般農事試験、樹苗ノ培養、農業気象ノ観測及在来農業ノ調査等ニ当レリ。

正隆銀行支店　大正七年五月設立。

鄭家屯医院　満鉄ノ公医ナルモ、亦赤十字施療院ヲ兼ヌ。

鄭家屯ホテル　満鉄補助ノ下ニ大正五年以来営業シ居リテ、十二年ヨリ洮南ニ支店ヲ設ケタリ。

(二) **支那側**　洮昌道尹公署、昌庫、彰武、康平、遼源、双山、梨樹、懐徳、通遼、開通、胆榆、洮南、突泉、洮安、安広、鎮東ノ十六県ヲ管理ス。

因ミニ奉天省ハ遼瀋道、東辺道、洮昌道ノ三道ニ分レタリ。

東北陸軍第十四師司令部及旅部　遼源県公署、遼源地方審判庁、同検察庁、遼東税捐局（遼源、通遼、双山、康平諸県ノ税務ヲ司ル）、省立第四高級中学校、商務会、農務会、福長地局、温都尓親王ノ地租徴収所、ソノ他郵便、電報、電話ノ各局及ビ、電灯廠等ノモノモアリ。

第七節　商工概覧

第一款　通　貨

A、硬貨　(1)現大洋ニハ袁世凱、孫中山、北洋、站人及ビ鷹洋アリ。(2)銅元ニハ各省鋳造ノ十文及ビ二十文アリ。

B、紙幣　(1)奉天票　(イ)中国銀行発行　十元、五元、一元アリ。以上ハ大、小洋ノ二種アルモ、小洋ハ稀ナリ。五角、二角、一角ハ全部小洋票ナリ。(ロ)交通銀行発行　十元、五元、一元ノ大洋票アリ。(ハ)東三省官銀号発行　十元、五元、一元ノ大洋票アリ。(ニ)奉天公涪平市銭号（銅元票）　百枚、五十枚、二十枚、十枚、五枚ノ小洋票アリ。(ホ)商務会票　十元、五元、百枚（小洋票）、五十枚、二十枚、十枚（以上ハ銅元票）。(2)大洋票(イ)中国銀行、交通銀行発行、十元、五元、一元アリ。(ロ)辺業銀行発行　二角、一角。(ハ)遼寧四行号聯合発行準備庫発行、六月十三日ヨリ此新大洋票ノ流通見ル。(3)哈尓浜現大洋票　十元、五元、一元、五角、二角、一角アリ。是等ハ市場ニ見ル事稀ナリ。

C、金票　コハ対日本人用トシテ其流通ヲ見ル。

第二款　金　融

今左ニ金融業者ヲ列記スレバ次ノ如シ。

金融業著名称	資本	所在地
正隆銀行支店		北大街
慶会銀号	100,000元	南大街
和盛長銭荘	30,000〃	中大街
東三省官銀号分号		南大街
日興盛銭荘	4,000〃	中大街
徳慶長銭荘	5,000〃	中大街

第三款　倉庫業

中国側粮桟ハ囤積場ヲ有スルモ、ソノ倉庫業者ハナシ。現時此業ハ未ダ普及セズ。

第四款　保険業

今左ニ保険業者ヲ列挙スレバ次表ノ如シ。

会社名	国籍	代理店名	一ケ年契約高	所在地
三井洋行	日本	永昌号	昭和4年6月新設	西街
元豊洋行		英美烟公司	2,000元	〃
英商聯合会	英国	〃	1,500元	〃
太古洋行	〃	太山峻	1,000〃	〃

第五款　貿　易

昭和三年度鄭家屯駅貨物発着屯数ニ拠ル。

昭和三年度（自三年一月至何十二月）鄭家屯駅発着統計表

発送貨物		
品名	公斤量	備考
高粱	8,514,000	
瓜子	169,808	
皮類	310,500	
牛馬類	777,600	
土域	809,236	票一発送
ソノ他	862,125	40,000公斤ヲ含ム

到着貨物		
品名	公斤量	備考
大布	102,792	
麻袋	195,270	
果物	295,871	
野菜	86,670	
蓆子	528,540	
※石炭	4,802,500	
棉花	271,000	
大車	42,400	
ソノ他	750,109	

※今石炭ノ内訳ヲ示セバ　北票ヘ　二四〇、〇〇〇　八道溝ヘ　八六〇、〇〇〇　奉天ヘ　七二〇、〇〇〇　其他高トシテ梅両ヘ　二、九八二、五〇〇

(註) 一公斤＝一キログラム　一公屯＝七、〇〇〇キログラム（我一、六六六斤）　（満鉄一トン＝我一、五一二斤）

第六款　日支合弁事業

正隆銀行支店及ビ満鉄出資ノ華興電気有限公司アリ。後者ハソノ成績良好ナリ。

第七款　商工業機関

商工局（商務会）アリ。会員数十八名、主席田子周（永昌号雑貨商経理）、副主席孫省三（福順大油房副経理）、所在地東大街関帝廟内

第八款　同業者組合

名称	所在地	会長	設立年
皮行同業公会	租師庙	王老明	光緒３年
理髪同業公会	徳本堂	李徳本	民国13年
成衣同業公会	西大街	厳祥武	民国３年
舘子同業公会	西大街	羅増軒	民国10年
馬車同業公会	西大街	高累升	民国14年

第九款　一般商業

コハ鄭家屯商買一覧表。糸房一五戸、雑貨商四二戸、小雑貨商三八戸、鮮果煙草店四〇戸、京貨荘二〇戸、估衣舗一五戸、軍衣荘四戸、皮貨荘一七戸、粮桟二四戸、銀号銀荘九戸、粮米舗二六戸、当舗四戸、茶荘八戸、餅食舗二二戸、五金行四戸、磁鉄舗五戸、首飾舗一〇戸、石印局六戸、染房一〇戸、鐘表舗一戸、銃子舗五戸、牛馬舗四戸、転運公司五戸、代理処八戸、小銅匠舗三戸、雨傘舗二戸、合計三四六戸、（昭和四年六月末現在）。

第十款　一般工業

種類	戸数	資本（元）	生産額（元）
焼鍋	3	530,000	198,850
油房	11	710,000	424,500
麻房	11	21,000	227,143
粉房	8	12,000	69,000
紐麻舗	8	6,500	49,450
醤園	5	5,700	6,420
麻子油房	—	—	—
皮被廠	8	42,000	113,700
皮靴廠	1	2,000	9,550
鞍靼舗	6	1,200	25,050
鞭杵舗	6	4,100	17,800
毡子房	10	41,000	52,200
皮箱舗	4	5,500	92,500
車舗	6	35,000	234,000
水舗	5	24,000	100,460
匣子舗	—	—	—
柳缶舗	7	12,500	11,623
槍鑪	5	9,000	108,700
鏵鏕	3	13,000	14,209
鉄匠鑪	7	8,500	30,500
洋鉄舗	6	1,200	6,960
紡織工廠	2	7,000	21,039
桟房	7	16,900	152,270
口袋舗	2	1,000	23,300
帯子房	—	—	—
石碱工廠	1	2,000	12,750
洋燭工廠	1	1,000	1,800
炸炮舗	4	3,400	10,308
紙房	4	2,300	
篋舗	6	3,800	4,426
蒲包	6	1,151	24,300
鞋舗	5	5,100	1,460
帽舗	5	4,100	178,156
香会	2	5,000	32,290
碾磨做房			6,132
合計	165	156,950	2,260,856

（昭和三年度統計）

〔備考〕

資本ハ土地及家屋等ノ固定資本ヲ含マズ。戸数モ亦大ナルモノヽミヲ掲ゲタリ。

第十一款　商工業者名

（イ）日本人

営業科目	商号	経営者	所在地
特産商	徳盛隆	菅野高治	南大街
特産商	福興公司	光崎鉄平	老税品胡同
石炭商	松昌公司	川野鉄治	南大街
請負業	泉水洋行	神戸末吉	南大街
雑貨商	山口洋行	山口雄造	北大街
薬品店	広済堂	窪田善太郎	北大街

（ロ）中国人

営業科目	商号	資本	経営者	所在地
油房粮業	福順店	100,000 元	石慶堂	西大街
油房粮業	永発長	90,000 元	郭慎九	東大街
油房粮業	元享利	80,000 元	馬栄久	興元太胡同
油房粮業	万源栈	60,000 元	張世辰	電皷胡同
油房粮業	天合長	60,000 元	温益享	東大街
油房粮業	議合興	50,000 元	李全福	東大街
油房粮業	義順厚	50,000 元	電鳳閣	北大街
油房粮業	巨盛泰	20,000 元	史雲章	北大街
油房粮業	慶舎栈	80,000 元	馮明九	老税局胡同
油房粮業	福興久	50,000 元	趙廷棟	鎮辺街
油房粮業	福徳源	30,000 元	李瑞廷	富賞街
油房粮業	豊聚栈	80,000 元	間樹勲	南大街
油房粮業	永記栈	35,000 元	張薄一	西大街
焼鍋粮業	益源泐	60,000 元	揚浦臣	北大街
焼鍋粮業	万盛泉	50,000 元	何斧芹	南大街
焼鍋粮業	峻豊栈	70,000 元	尹佈宣	西大街
粮業雑貨	万源聚	50,000 元	劉絵廷	十四街路北
粮業雑貨	福順興	40,000 元	世鴻升	北街
粮業雑貨	徳順恒	35,000 元	薪菊豊	南街
粮業	徳順長	50,000 元	李振邦	南街
雑貨	聚泰隆	60,000 元	徐閣堂	北街
雑貨	福盛合	30,000 元	王雲五	北街
雑貨	炎成永	40,000 元	雲声軒	北街
雑貨	義源大	40,000 元	従園	北街
雑貨	徳源泰	30,000 元	当慶元	北街
雑貨	恒昌源	35,000 元	焦子坊	北街
雑貨	永昌号	30,000 元	田子周	南街

（完了）